



真の強さを学ぶ。

新潟大学

NIIGATA UNIVERSITY

理学部案内

Faculty of Science, Niigata University

2027



人と自然の共生を目指して

「数理と自然を解き明かし、
未知なる領域を切り拓く」

CONTENTS

- P.04 授業科目の構成の概要
- P.05 フロンティア・スタディ・プロジェクト
- P.06 入試案内

- プログラム等の紹介
- P.07 数学プログラム
- P.09 物理学プログラム
- P.11 化学プログラム
- P.13 生物学プログラム
- P.15 地質科学プログラム
- P.17 自然環境科学プログラム
- P.19 フィールド科学人材育成プログラム
- P.21 佐渡自然共生科学センター 臨海実験所
- P.22 大学院総合学術研究科

- P.23 先輩からのメッセージ
- P.26 キャリアフォーラム
- P.27 進路状況
- P.28 数字で見る理学部
- P.29 理学部の共通施設
- P.30 五十嵐キャンパスエリアマップ、交通アクセス

学部長からのメッセージ



理学部長 高澤 栄一

理学部の沿革

1949年5月	国立学校設置法の公布により、理学部は数学科、物理学科、化学科、生物学科、地質鉱物学科の5学科で発足。
1953年8月	理学部附属臨海実験所を佐渡郡金泉村大字達者（現佐渡市達者）に設置。
1955年7月	理学専攻科を設置。
1965年4月	大学院理学研究科修士課程（数学、物理学、化学、生物学、地質鉱物学専攻）を設置。これに伴い理学専攻科を廃止。
1970年5月	新潟市西大畑地区から、新潟市五十嵐地区の新校舎に移転。
1978年4月	積雪地域災害研究センター設置。
1985年4月	大学院理学研究科物質科学専攻（後期3年博士課程）設置。
1987年4月	大学院自然科学研究科博士課程（物質科学、生命システム科学、生産科学および環境科学専攻）設置、大学院理学研究科物質科学専攻は同研究科に移行。
1994年4月	自然環境科学科を設置。地質鉱物学科を地質科学科に改組。
1995年4月	大学院理学研究科、工学研究科および農学研究科が自然科学研究科前期課程に再編成され、自然科学研究科が前期2年の課程および後期3年の課程に区分する博士課程となる。
2017年4月	6学科（数学科、物理学科、化学科、生物学科、地質科学科、自然環境科学科）を廃止し、1学科（理学科）として7プログラム（数学、物理学、化学、生物学、地質科学、自然環境科学、フィールド科学人材育成）を設置。
2026年4月	大学院改組により自然科学研究科、現代社会文化研究科の博士前期課程および医歯学総合研究科の修士課程を再編し、大学院総合学術研究科修士課程（自然科学専攻、人文社会科学専攻）を設置。

新潟大学理学部の教育目標

理学は、自然界の構造や仕組みを明らかにする学問です。新潟大学理学部は、真理を探究する基礎科学の研究を推進するとともに、社会から要請される広い応用分野に基礎学問領域から貢献することを目指しています。その実現のために、科学技術の基盤となる理論と方法の創出を担う人材を育成するとともに、現代社会が直面している多様な課題に対して基礎科学を基盤に対応できる人材を育成し、社会に送り出すことを教育目標としています。

新潟大学理学部の教育体制

新潟大学理学部は、入学から2年次前半まで数学と理科を中心に幅広い素養を身につけ、これを進路選択に活かせるように1学科制を採用しています。理学の各分野が提供する系統的・段階的な講義を履修し、理学の共通基盤形成に必要な演習・実習科目を、複数分野を横断しつつ広く学ぶことで、理学の基礎知識と方法論を身につけることができます。また、課題解決力の育成を目的としたアクティブ・ラーニング科目（理学基礎演習）や社会との連携を重視したインターンシップの履修を通して、各分野の先端的課題はもちろん、今日的な複合的課題に取り組む力を培うことができます。

新潟大学理学部のキャリア教育と国際交流

理学の学びは単なる知識の蓄積にとどまらず、それを応用し、人類や社会に貢献することも重要な目的の一つです。学生の進路意識の向上を図る広範なキャリア教育によって、理学部で身につけた科学的思考力や問題解決能力をいかに社会に還元していくか考える機会を創出しています。また、現代社会は一層の国際的な協働力と意思疎通力が求められています。理学部では令和4年度から、文部科学省の助成のもと、大学の世界展開力強化事業を実施しています。インド、オーストラリア、スリランカの協定校と、フィールド科学分野におけるグローバルコミュニケーション力育成を重視した学生・研究者の国際交流に取り組んでいます。

未来の科学人材育成事業と総合型選抜

理学部は、新潟ジュニアドクター育成塾（令和5年度終了）に引き続いて、令和6年度から中谷財団の支援を受け、中学生を対象とする「N-Step新潟」と、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の助成のもと、高校生を対象とする「にいがた“知の革新”STELLAプログラム」を実施しています。実践を踏まえた多角的なプログラムを受講し、科学研究の基盤となる知識や技能を習得し、研究者を目指すことができます。また、令和3年度入試から総合型選抜を導入し、興味、関心、好奇心、感受性を持って探究活動に根気強く取り組む姿勢を有する学生を積極的に受け入れています。理学部は、地域での探究活動の萌芽を育てつつ、選抜方式に依らず小中高で探究活動に親しんで入学してくる学生を歓迎するとともに、入学後の活動の継続を支援していきます。

1 学科 7 プログラム

理学全開! 探究心はとめられない



新入生200人を理学科に
受け入れます

理学部の4つの特徴 —分野を横断する理学教育を実現—

1. 幅広い好奇心を伸ばす理学部共通教育

2年生前半終了時までの共通教育では、好奇心を大きく伸ばし、また、希望する専門を目指して基礎を築きます。講義室から飛び出して科学する力を養うアクティブ・ラーニング型の授業などを導入しています。

3. フィールド科学人材育成プログラムの設置

理学部と農学部が協働して設置しています。佐渡の臨海実験所や演習林など屋外施設を活用し、フィールドでの実践を重視する特徴あるプログラムです。

2. 2通りの学修方法で大きく広がる可能性

学位プログラムでは、その分野での専門的な課題解決力の育成を目指す「専門カプログラム」と、他分野も合わせて学び融合分野での活躍を目指す「総合カプログラム」が選べます。

4. フロンティア・スタディ・プロジェクト

科学者をめざそう！ 数学大好き、理科大好き、すぐにも研究活動に取り組んでみたい。仲間を集め、ゼミを立ち上げよう。「フロンティア・スタディ・プロジェクト」はそんなキミを支援する制度です。入学時に希望するプログラムへの配属優先権が与えられます。本制度には一般選抜（前期日程）または総合型選抜の出願時に申請します。（詳細は5ページに記載）

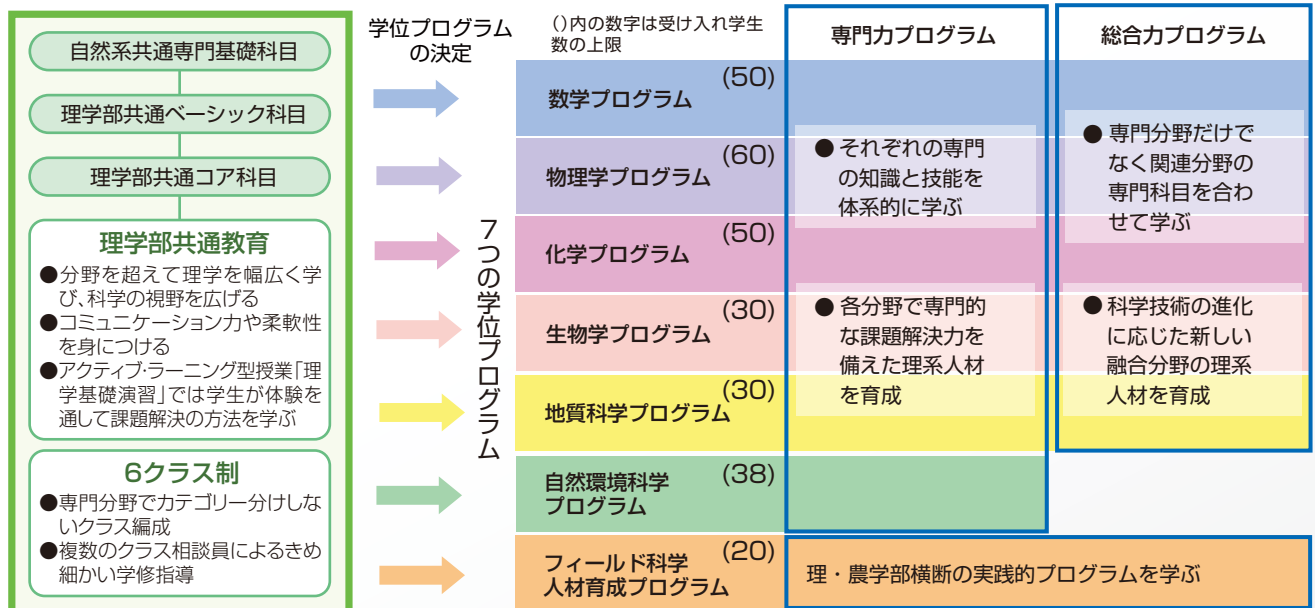
理学部の学位プログラムの選択と学修方法

●2年前期まで

●2年前期
終了時

●2年後期以後

学位プログラムの学修方法



フロンティア・スタディ・プロジェクト

●研究志向のフロントランナーを育成

●前期日程合格者の中から30名程度

●総合型選抜合格者の中から各プログラム1名程度

理学部の授業科目の構成の概要

大学学習法

大学学習法の科目である理学スタディ・スキルズは、理学部の学生としての共通の素養を身につけるとともに、専門科目の履修のしかた、学位プログラムの選択のしかたなどをガイドします。

自然系共通専門基礎科目

自然系の学問を学ぶためには、数学、統計学、物理学、化学、生物学、地学の基礎を十分に固めておく必要があります。高等学校での学習では不十分であったり、また履修しなかった場合も含めて、理学部の学生として共通に必要な基礎科目を1年生～2年生の間に体系的に学びます。



共通ベーシック科目

理学部共通ベーシック科目は、理学部学生が持つべき基礎科学の基盤的能力を養成する科目群で、各分野の実習・演習などがあります。また、アクティブ・ラーニング型授業「理学基礎演習」などを通して現実の多様な課題の解決に必要な創造性や柔軟性、およびコミュニケーション能力を養成します。

共通コア科目

学位プログラムを体系的に履修するために必要となる専門基礎科目です。

学位プログラム専門科目

基礎科学の基幹的専門体系である数学、物理学、化学、生物学、地質科学を専門性形成の中心に据える5つの学位プログラムと、自然環境の諸課題に基礎理学の立場から多角的にアプローチする自然環境科学プログラム、理学部と農学部が協働してカリキュラムを構成する学部横断型のフィールド科学人材育成プログラムの計7つの学位プログラムで専門教育を行ないます。

卒業研究

4年生になると、専攻した分野のまとめに入ります。プログラムにより、課題研究、ゼミなどの名称で、少人数に分かれて専門をより深く学びます。これらの卒業研究等を通して、自然科学の見識と応用力を身につけることができます。

学位プログラムの選択などについてのQ&A

Q1：学位プログラムはいつ決定されるのですか？

A1：希望調査をおこない、2年次1学期終了時に学位プログラムを決定します。なお、学校推薦型選抜合格者は入学時に決定します。フロンティア・スタディ・プロジェクトに選抜された学生には入学時に希望する学位プログラムへの配属優先権が与えられます。

Q2：学位プログラムはどのように決定されるのですか？

A2：入学後、複数回の希望調査をおこない、それに基づいてアドバイザー教員と相談しながら学位プログラムを決定します。学生の希望が生かせるように、各プログラムの受け入れ学生数の上限は多めに設定されています（左の図を参照）。

Q3：入学してから、どの学位プログラムに進むかを考えたい。学位プログラムの内容を知る機会がありますか？

A3：入学後、「理学スタディ・スキルズ」では各プログラムの内容の紹介があります。また「理学基礎演習」では各分野の研究や専門科目の内容を学生が体験します。これらの科目や2年次第1学期終わりまでの授業を通して、学位プログラムを知り、選択する十分な時間と機会があります。

Q4：専門カプログラムと総合カプログラムの違いについて教えてください。

A4：専門カプログラムは学位プログラム専門科目を中心に、総合カプログラムは学位プログラム専門科目だけでなく、他の学位プログラム専門科目と共通コア科目を組み合わせて学修を進めるプログラムです。学生は自主的にいずれかを選択し、履修計画を立てて学修を進めます。

Q5：フィールド科学人材育成プログラムに興味がありますが、理学部に入学してプログラムを選択するのと農学部に入学者プログラムを選択するのでは違いがあるのでしょうか？

A5：理学部に入学すると、まず理学部の基礎的な科目を学びますし、農学部に入学者と農学共通基礎科目を学びます。そこが大きな違いです。プログラム選択後は学部によらず同じ専門科目を履修し、卒業研究はどちらの教員の研究室でも行なえます。

フロンティア・スタディ・プロジェクト

理学部には、数学や理科が大好きで主体的に学修と研究を進めたい学生を、研究志向のフロンランナーとして育成することを目的とした「フロンティア・スタディ・プロジェクト」という支援制度があります。

具体的には、下記の支援例にあるように、各プログラムで自主ゼミや研究室体験などの企画を通して、能動的な学習を促しています。

この制度への参加が認められた学生には、入学時に**希望するプログラムへの配属優先権**が与えられます。

科学者を目指そう!



支援の対象となる
学生

入学時に配属希望のプログラムを決めている学生

さらに、入学後すぐに配属希望のプログラムの分野について意欲的に学修したい学生

各プログラム支援例

プログラム支援員の協力のもとで1年生の段階から、自主ゼミを始めたり、研究活動を開始したりすることができます。

数学プログラム

- 自主ゼミ
- 数学の学び方、調べ方、考え方の支援
- 教科書や参考書の紹介
- 数学講究（ゼミ）の見学



自主ゼミの様子

物理学プログラム

- 研究室紹介
※右は原子核実験の解説場面
- 研究室体験
※模擬実験や模擬実習



化学プログラム

- 研究室体験 および 研究室訪問
- 授業科目の先取り履修
- 講演会やシンポジウムへの案内
- 化学自主学修支援室への優先参加



研究室体験（構造有機化学研究室）の様子

自主ゼミとは

調べてみたいテーマを持っている人達が自主的にグループを作り、授業とは関係なく自分たちで調査・研究を進めます。

生物学プログラム

- 研究室見学
- 生物学プログラム行事への参加
- 先取り研究体験（模擬実験）
- 先取り履修



PCR実験を体験中!

地質科学プログラム

- グループ研究
- 学会発表・論文作成支援
- 地質フィールド巡検
- 特別レクチャー



研究のための野外調査風景

自然環境科学プログラム

- 先輩学生による新歓イベントの開催
- フィールドナビでの研究室紹介
- 研究室の見学ツアーの開催
- 自主ゼミの支援
- 成績優秀者への研究室配属優先権の付与



潮間帯底生動物のサンプリング風景

フィールド科学人材育成プログラム

- フィールド親睦会への参加
(先輩や先生と交流)
- 研究活動への参加
- フィールドナビでの研究室紹介
- 研究室の見学ツアーの開催
- 成績優秀者への研究室配属優先権の付与



参加申請方法

一般選抜（前期日程）または総合型選抜への出願者が、出願時に、この制度へ参加申請することができます。

- 出願登録時に「フロンティア・スタディ・プロジェクト」欄において、希望するプログラムを選択してください。
- 申請者の中から入学試験の成績に基づいて、一般選抜（前期日程）では、理学部全体で30名程度選抜します。総合型選抜では、各プログラム1名程度選抜します。

また、入学後、1年次から2年次に進級する際に追加募集（一般選抜（後期日程）の入学者も申請可）を行います。

令和9年度新潟大学理学部入試案内

理学部では、多様な能力の学生を求める入学者選抜を実施しています。
総合型選抜および一般選抜（前期日程・後期日程）では、学位プログラムにかかわらず、理学科全体で一括して募集します。学校推薦型選抜では、学位プログラムごとに募集します。

入学定員（募集人員）

学部	学科	入学定員	募集人員				
			一般選抜		特別選抜		
			前期日程	後期日程	総合型選抜	学校推薦型選抜	帰国生徒
理学部	理学科	200人	125人	30人	5人	40人	若干人

理学部理学科は、7つの学位プログラム（数学、物理学、化学、生物学、地質科学、自然環境科学、フィールド科学人材育成）からなります。学位プログラムへの所属は2年次1学期終了時点で決定します。

総合型選抜

数学や理科に関するテーマで主体的な探究の学習成果をもつ人を一括して選抜します。

学科	募集人員	教科・科目等	
		大学入学共通テスト(第2次選抜)	本学が実施する試験等(第1次選抜)
理学科	5人	国語、数学、理科、外国語、情報	プレゼンテーション及び口頭試問

総合型選抜では、課外での研究に関わる活動実績を主に評価します。大学入学共通テストでは基礎学力を評価します。選抜は2段階で行います。第1次選抜でプレゼンテーション及び口頭試問、書類審査による選考を行い、選考結果を通知します。第2次選抜では、大学入学共通テスト（国語、数学、理科2科目、外国語、情報）の得点に基づいて選考を行います。（出願時に、フロンティア・スタディ・プロジェクトへ参加申請することができます。）

〔出願（9月）→ プレゼンテーション及び口頭試問（10月）→ 大学入学共通テスト（1月）→ 合格発表（2月）〕
※日程等は変更になることがあります。最新の情報は理学部ホームページで確認してください。

学校推薦型選抜

特定の学位プログラムへの明確な志望動機があり、数学や理科に対する知的好奇心や探究心があるとともに学習意欲の高い人を学位プログラム単位で選抜します。なお、**フィールド科学人材育成プログラムでは学校推薦型選抜は行いません。**

学科・学位プログラム	概ねの募集人員	教科・科目等	
		大学入学共通テスト	本学が実施する試験等
数学プログラム	10人	課さない	基礎学力試験、面接
物理学プログラム	7人		
化学プログラム	7人		
生物学プログラム	5人	国語、数学、理科、外国語、情報	課さない
地質科学プログラム	5人		
自然環境科学プログラム	6人		

〔出願（11月：全プログラム共通）
数学プログラム および 物理学プログラム：基礎学力試験＋面接（11月）→ 合格発表（12月）
化学プログラム および 生物学プログラム：大学入学共通テスト（1月）→ 合格発表（2月）
地質科学プログラムおよび自然環境科学プログラム：面接（11月）→ 大学入学共通テスト（1月）→ 合格発表（2月）〕
※日程等は変更になることがあります。最新の情報は理学部ホームページで確認してください。

一般選抜（前期日程）

特に数学と理科について十分な基礎学力がある人を、個別学力検査の試験科目とその評価の重点の異なる3つの選抜方法により、一括して選抜します。

学科・選抜方法	概ねの募集人員	教科・科目等	
		大学入学共通テスト	個別学力検査等
理数重点選抜	85人	国語、数学、理科、外国語、 地歴・公民、情報	理科（物理、化学、生物、地学から1科目）、数学、英語
理科重点選抜	25人		理科（物理、化学、生物、地学から2科目）、英語
野外科学志向選抜	15人		理科・数学（物理、化学、生物、地学、数学から2科目）、面接 （フィールドワークや野外を対象とする自然科学分野に対する意欲と適性を面接ではかります）

（出願時に、フロンティア・スタディ・プロジェクトへ参加申請することができます。）

一般選抜（後期日程）

高校卒業程度の幅広い学力を備え、大学での学習意欲や適性およびコミュニケーション能力を有する人を一括して選抜します。

学科	募集人員	教科・科目等	
		大学入学共通テスト	個別学力検査等
理学科	30人	国語、数学、理科、外国語、 地歴・公民、情報	面接

数学プログラム



WEB

～21世紀の科学をしっかりと支える数学～

Mathematics Program

<http://mathweb.sc.niigata-u.ac.jp/>

数学はあらゆる現象を記述する上で必要不可欠な「言語」です。
数学によって記述される現象を観てみませんか。

数学のすすめ

■数学とは？

目には見えなくても、たとえばスマートフォンのように身の回りにあるものから宇宙にロケットを発射する時でさえも、数学はありとあらゆる場面に登場する学問です。数学では数や集合で成り立つ関係を調べます。

■お勧めポイントは？

本数学プログラムでは、社会から求められている「**数学的な考え方を**用いて、**問題点を整理し解決する力**」を身につけることができます。

■研究の特徴は？

数学には解析学、代数学、幾何学、応用数学といった様々な分野がありますが、本数学プログラムにはそれらが一通りそろっています。興味ある分野を学び、大学院へ進学し専門性を深めることも、数学と他分野にまたがる領域を学び応用力を身につけることも可能です。



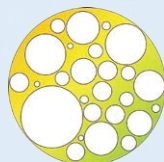
■教育の特徴は？

本数学プログラムでは1、2年次に数学の基礎を固め、3年次からはそれぞれの興味に応じた専門科目を解析学、代数学、幾何学、応用数学から選んで学ぶことができます。特定の分野を中心に学ぶことも、また数学の理論から応用まで幅広く学ぶことも可能です。特に理論数学だけでなく応用数学科目も充実していることが本数学プログラムの特徴です。

こんな研究をしています！

■解析学分野

解析学は微分積分を発展させた学問です。たとえば保存問題（与えられた性質を変えない関数の決定）、解けない微分方程式の解析、ジャイロ構造の研究を行っています。



■代数学分野

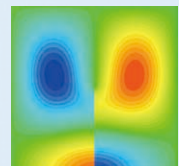
代数幾何学と数論は世界中で研究が盛んに行われている分野です。数学のノーベル賞とも呼ばれるフィールズ賞の日本人受賞者3人は代数幾何学の分野の研究者です。数論のフェルマーの最終定理やリーマン予想、abc予想などは有名です。

■幾何学分野

2点を結ぶ曲線の長さの最小値を2点間の距離と定義した内部距離空間の研究を行っています。幾何学だけでなく、力学系理論や最適配置問題など多くの分野とも関連します。正多面体の骨組みに代表される、曲面上のグラフの研究も行っています。

■応用数学分野

数学を生活に役立てる方法を研究しています。たとえば経路探索を正確にする方法や、為替変動の原因の解析、水の流れ、人口の変化をモデル化し研究しています。



2つの学修方法(専門カプログラムと総合カプログラム)があります!

■専門カプログラム

専門カプログラムでは数学そのものを学び、深く理解することを目指します。卒業生は在学中に身につけた力を活かし、数学教員やシステム・ソフトウェア開発に携わるIT業界、銀行・証券・保険などの金融業界、自動車や鉄道関連企業などで幅広く活躍しています。さらに深く数学を学びたい人の多くは大学院に進学して、高度な数学を学んでいます。



■総合カプログラム

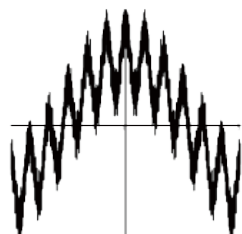
数学を学ぶ上での基礎を1、2年次に固め、物理学等の他プログラム科目を並行して学ぶことにより3、4年次には数理物理学などの学際分野や応用数学の基礎知識を獲得することができます。卒業後の進路は、アクチュアリー、証券アナリスト、ファンドマネージャーやクオンツアナリストなどの金融業界への就職が考えられます。



こんな授業があります!

■関数解析学A, B

高校では自由に関数を微分しますが、どの点でも微分できない連続関数の存在が知られています。そのような関数はたくさんあるのでしょうか?

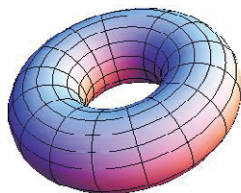


■代数系ⅡA, ⅡB

5次方程式には解の公式が存在しません。2次、3次、4次の場合には解の公式は実際につくれますが、公式が存在しないことはどうやって証明できるのでしょうか?大学の代数系授業の1つの到達点として「ガロア理論」を学びます。 $X^5 + aX + b = 0$?

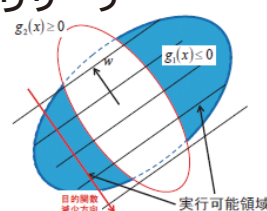
■幾何学ⅡA, ⅡB

地球儀や地図帳には、座標と考える線があります。この考えを深めて、座標の導入法や微積分の応用法について学びます。可微分多様体論入門講義です。



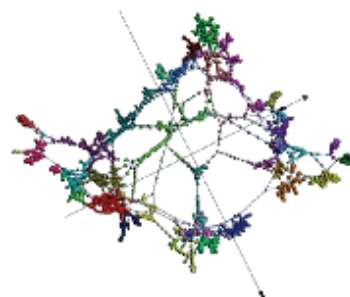
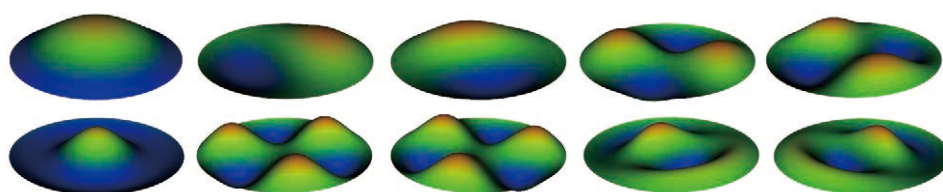
■オペレーションズ・リサーチ

たとえば「お店の商品をどこに、どのように並べれば売り上げがよくなるか」という問題を、数学を用いて解決する方法を学びます。



微分積分学、線形代数、数学演習、解析学序論、代数・幾何学序論、集合と位相入門、数学講究(ゼミ)

これらのほかにも魅力的な授業科目がたくさんあります! 詳しくは理学部のホームページへ



数学プログラム卒業生の進路と就職先の例

進路として、大学院進学、中学校・高校数学教員、公務員、システム・ソフトウェア開発、銀行、証券、自動車、鉄道、不動産、建築などの企業に実績があります。

就職先の例(順不同)

(株)第四北越銀行、(株)大光銀行、福島銀行(株)、群馬銀行(株)、アクセンチュア(株)、野村証券(株)、SMBCフレンド証券(株)、丸三証券(株)、明治安田生命保険相互会社、キャノンイメージングシステム(株)、沖テータ(株)、(株)富士通新潟システムズ、NECソリューションイノベータ(株)、京セラコミュニケーションシステム(株)、(株)日立ソリューションズ東日本、越後交通(株)、(株)NSGホールディングス、東日本旅客鉄道(株)、(株)BSNアイネット、(株)原信、JA全農にいがた、警視庁警察官、国税専門官、新潟市職員、国立大学法人新潟大学

物理学プログラム



WEB

面白い、は自然の奥にある。

Physics Program

<http://physics.sc.niigata-u.ac.jp/>

素粒子から宇宙までの物質＝物(モノ)と、その奥にある法則＝理(コトワリ)。
「物と理」を究めることは、急激に変化する時代を生きぬく確かな力になるはずです。

物理学のすすめ

■物理学とは何だろうか

朝永振一郎博士(1965年ノーベル物理学賞)は、著書のなかで「物理学は自然界に起こる現象の奥に潜む法則を、観察事実を照らして探求する」ものと述べています。

素粒子・原子核・原子の極微の世界から壮大な宇宙までを対象として、物質の根源や宇宙の始まりをめぐる謎を探究したり、物質の多様な性質を調べて、新物質の開拓にも挑戦したり。そして、広範な科学技術を支えているのが、物理学なのです。

■お勧めポイントは?

物理学の幅広い分野がそろっており、興味を持てるテーマがきっと見つかるはず。野辺山天文台(写真上段)、KEK(中段)、放射線医学総合研究所などの研究機関で他大学の人と交流する機会もあります。また、医学物理のマイナープログラムも選択できます。

■研究の特徴は?

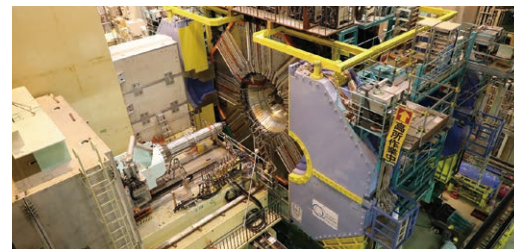
量子科学(最新の計算機を駆使する原子核物理や超電導などの物性物理)では伝統ある研究拠点です。究極の微小世界、素粒子物理ではノーベル賞の受賞をサポートし、宇宙物理では星などの天体から時空間としての宇宙までもが数式化されます。

■教育の特徴は?

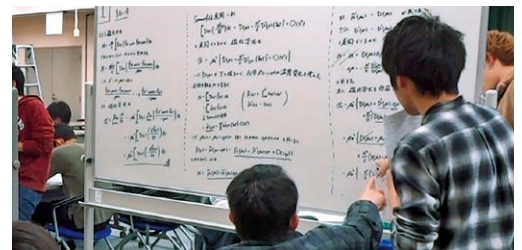
古典物理学から現代物理学まで、基礎がしっかり身につくように講義・実験・演習が整備されています。動画による事前学習と少人数グループでの演習を組み合わせる「反転授業」の要素を取り入れた科目の開設など、教育改善の試みも盛んです。



国立天文台(野辺山)の45m電波望遠鏡での実習



高エネルギー電子・陽電子衝突実験 Belle II の素粒子検出器

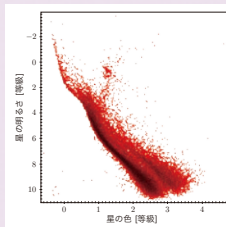


反転授業における討論形式の演習

こんな研究をしています!

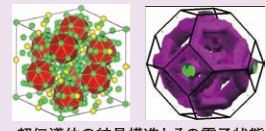
■宇宙物理学分野

銀河系の詳細な星の地図をつくるために、10億個以上の星の方向を1度の1億分の1の正確さで決める壮大な観測が今、行われています。私たちは観測データを解析し、星が誕生するメカニズムの解明を目指します。右図は卒業生が作成した「星の色と明るさの関係図」です。



■物性理論分野

電子・原子・分子のミクロな世界の法則から超伝導や磁性などマクロな現象を導き出すことは物理学の中心テーマの一つです。私たちも、現代物理学の二本柱である量子力学・統計力学、さらには計算機シミュレーションを駆使して、物質の示す多彩な性質の解明と、新物質の設計を目指した研究を進めています。



超伝導体の結晶構造とその電子状態

■高エネルギー物理学(素粒子実験)分野

スーパーカミオカンデやBelle実験などの国際共同実験に、多くの学生と参加し、ノーベル賞級の研究を支えてきました。現在も、新加速器を用いたBelleII実験(写真中段)に参加して、宇宙誕生の謎に挑戦しています。(写真は、検出器心臓部の制作の様子。)



Belle II 実験の粒子識別装置の構築

■物性実験分野(超音波グループ)

室温から絶対零度(-273℃)近くまで冷却することで、物質中の電子が示す量子現象を、超音波を用いる独創的方法で研究しています。レアアース化合物や鉄系超伝導体の解明、シリコン原子空洞の観測など、基礎科学から産業応用に広がる先端的研究を展開しています。

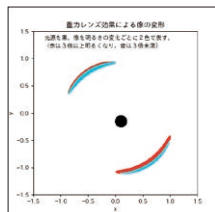


希釈冷凍機への液体ヘリウムの充填作業

2つの学修方法(専門カプログラムと総合カプログラム)があります!

■専門カプログラム

大学院での研究につながるように、量子力学や統計力学などの現代物理学の学修を、重点的に進めます。さらに、相対性理論、素粒子物理学、原子核物理学、物性物理学、宇宙物理学などの科目を通して専門性を磨くと同時に、エレクトロニクスなどの基礎知識、計算機や実験装置の操作についての技能を身につけた専門人材を育成します。



■共通 研究室配属は、専門力・総合力の選択には制約されません。卒業研究発表会が終わると、もうすぐ卒業式です。

■総合カプログラム

物理学の学修を選択的に進め、論理性や問題発見能力を鍛えます。さらに、数理・情報、化学物理、生物物理、地球物理などを選択し、幅広い視野を身につけることで、例えば、データ・サイエンス、経済物理学や金融工学、または、新素材や新奇物質の開発などなど、多様化する社会のさまざまな分野で活躍できる人材を育成します。



■共通 6月の「ケルビン祭」では、成績優秀者の表彰(写真左)、院生による研究室紹介、親睦会(写真右)が行われます。

こんな授業があります!

■物理学基礎AI

ニュートン力学の基本法則を微積分を用いて学びます。身の回りの物体や惑星の運動などを例に、質点の運動を微分方程式で表現することやその解法を学びます。高校で習う内容を体系的に整理し、「物理は公式の暗記ではない」ことを確認することで、4年間の学習の出発点とします。



■統計力学IA～II

ミクロな法則とマクロな現象の間をつなぐ学問が統計力学です。確率の考え方をを用いて、温度やエントロピーなどの熱的な性質が理解できることを学びます。講義と並行して、豊富な具体例について問題演習を行います。(写真: 解答の発表や検討の様子)



■物理学実験A～D

実験することで、講義の内容を確実な知識にします。装置の動作原理や操作方法、データの処理方法など、実験技術の基本を修得します。電気回路、超伝導、X線や放射線の計測、核磁気共鳴(写真)など豊富なテーマを扱います。グループで協力することやレポートにまとめる能力を身に付けます。



■課題研究I～II

4年次の一年間、研究室に分れて、理論ゼミや実験に取り組みます。



教員・院
生・学生

どうしの密度の濃い議論を通して、先端的な研究課題に触られます。年度末には、卒業研究の成果発表会を行います。



基礎物理数学、物理基礎実習などの入門的な科目をはじめ、電磁気学、量子力学、統計力学などの本格的講義や豊富な演習・実験科目がそろっています。4年次の課題研究では、自主的に新しい知識や技術を獲得したり、課題を発見する姿勢を身につけます。個人の問題解決能力を鍛えるだけでなく、協働して課題解決にあたる体験を通して、コミュニケーション能力や自己表現力を高めることができます。

これらのほかにも魅力的な授業科目がたくさんあります! 詳しくは理学部のホームページへ

物理学プログラム卒業生の進路と就職先の例

教員や公務員に就職するほか、多くの学生が大学院へ進学しています。日本学術振興会の特別研究員に採用されて研究者を目指す人や、医学物理士、アクチュアリー(保険数理士)、弁理士などの高度専門職を目指す人もいます。既に、大学教員として活躍している人もいます。

物理学プログラムで鍛えられた学生の「強み」は、物事の本質を見抜く力や、未知の課題に直面したときの解決能力の高さであると評価されています。そのような「強み」を生かして、多くの卒業生がさまざまな業種の民間企業で活躍しています。10年先・20年先の社会でも決して色褪せない基礎力を持った貴重な人材として期待されています。

就職先の例(順不同)

県内: 日本精機㈱、グローバルウェーブ・ジャパン㈱、富士通新潟システムズ㈱、キヤノン・イメージングシステム㈱、亀田製菓㈱、ほか。
県外: 京セラ㈱、村田製作所㈱、沖データ㈱、TDK㈱、ニコン㈱、ソニー生命保険㈱、野村證券㈱、東日本旅客鉄道㈱、信越化学工業㈱、ほか。

化学プログラム



WEB

～化学が拓く21世紀の夢～

Chemistry Program

<https://chem.sc.niigata-u.ac.jp/>

環境調和型化学(グリーン・ケミストリー)の概念に基づく物質の科学
宇宙空間から人間の体内まで、いつでもどこでもなんでも化学の出番

化学のすすめ

■化学とは?

化学は、広大な宇宙空間から細胞核の中まで、光が原子1個分を進むくらいのアト秒から宇宙開闢以来の数億年にわたる、広い時空間に存在する物質の特性や反応性の原因を探索して物質世界の基盤を明らかにしてゆく科学です。さらにその知識を活用して、これまでに存在しなかった新しい機能・特性を持つ物質を創生してゆく科学でもあり、化学の対象となる物質は無数の可能性と多様性を秘めています。化学は物質をめぐる科学の中心として、数学や物理学、生命科学などの基礎科学、工学、農学、医学、薬学、環境学などの応用科学分野とも深く関わりを持ちながら発展を続けています。

■お勧めポイントは?

物質の変化・多様性に興味があるかぎり、どんな分野でも化学の知識は必ず必要であり、学習したことは生きてきます。

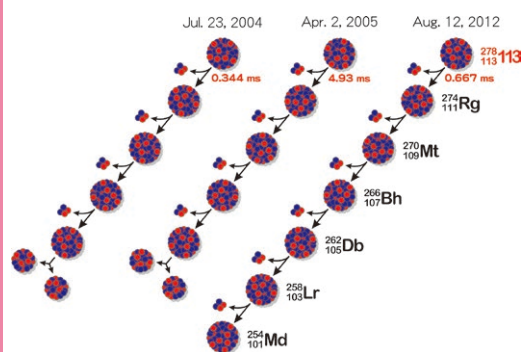
■研究の特徴は?

人類の持続的な発展のため、グリーン・ケミストリーを視野に入れた幅広い分野の研究を行っています。

■教育の特徴は?

座学である講義と自分自身で操作する種々の実験や演習をとおして、各分野の化学を体系的に学習できるように、学年・タームのふさわしい時期に講義と実験を配置しています。卒業研究では教員一人あたり2～3名の少人数教育であなたを鍛えます。専門力・総合力いずれのプログラムでも、多くの学生がさらなる研鑽と高度な研究を続けるため大学院へ進学します。

新元素命名おめでとう!



新元素の探索と化学的性質の解明：核化学研究室メンバーは、理化学研究所で行われている新元素探索の共同研究グループに参加しています。上の図は、観測した113番元素の放射壊変系列です。2004年の最初の測定から8年後、決定的データが得られました。これにより、新元素である113番元素の命名権が与えられました。Nh：ニホニウムが提案されています。2016年に正式決定しました。

こんな研究をしています!

■無機・分析化学分野

溶液化学研究室では、これまでにない溶媒であるイオン液体の構造とダイナミクスを研究しています。イオン液体は、環境にやさしい性質から、リチウムイオン二次電池の電解質溶液などとしての応用が期待されています。



■有機化学分野

有機化学分野の各研究室では、環境にやさしい化合物や有用な新しい化合物を探索して、グリーン・ケミストリーの観点に立った新しい合成方法を研究しています。写真は、新蛍光性有機化合物の合成中の様子です。



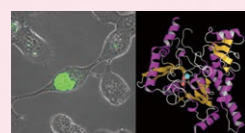
■物理化学分野

光エネルギーの有効利用を目指し、太陽電池や光合成にとって大事な光化学反応を研究しています。写真は、環境にやさしい有機物質でできた次世代電池の性能向上をめざし、光酸化還元反応を調べるための測定装置です。



■生化学分野

脱リン酸化酵素による発がんメカニズム解析と阻害剤の開発を行っています。酵素の制御異常による発がんの機構や抗がん剤を、化学の観点から研究を展開しています。蛍光標識を導入した細胞とタンパク質の立体構造です。



2つの学修方法(専門カプログラムと総合カプログラム)があります!

■専門カプログラム

専門カプログラムは、化学に関する高度な知識と経験を身につけた学生を育て、社会に送り出すことを目的としています。そのため、化学の基本から専門にいたる知識を段階的かつ重点的に理解できるよう、分析化学、無機化学、有機化学、物理化学、量子化学、生化学に関する講義と実験を、ふさわしい学年・タームに配置しています。卒業年次(4年次)では各学生が希望する研究室に所属して、最先端の研究(課題研究)と演習(セミナー)を重点とした教育が行われます。

■総合カプログラム

総合カプログラムは、他分野の現象を化学の目で見つめ、境界領域における化学の応用を積極的に進めることを目的とします。化学プログラムが提供する講義・実験のうち関連分野に近い科目を選んで受講する一方、他プログラムの講義・実験を必ず受講し、境界領域での知識と経験も身につける教育を行います。右図の総合カプログラム中の科目名は、他プログラム科目の受講例です。



こんな授業と行事があります!

■学位プログラム講義

高校との接続科目(化学基礎など)、理学部共通のベーシック科目・コア科目を経て、化学プログラムの専門講義へと発展してゆきます。さらに第一線研究者や企業研究者による集中講義まで、基礎から最先端まで、多様なレベルの講義が開講されています。写真は構造有機化学の講義中の一コマです。



■化学実験

座って講義を受けるだけでなく、実際に自分の手を動かして様々な化学分野の実験を行います。講義で受けた内容を体験・確認して実験技術を磨くだけでなく、共同実験でのコラボレーション能力、レポート作成を通して文献調査能力を身につけます。写真は物理化学実験の様子です。



■課題研究

4年生になると研究室に所属して、指導教員とともに最先端の課題研究に取り組みます。化学プログラムで学んだ4年間の集大成とも言うべき研究成果を化学プログラムメンバー(教員・学部学生・大学院生など)の前で発表します。写真は課題研究発表会の一コマです。



■学修支援・行事

化学プログラム学生への学修支援体制として、学生一人にアドバイザー教員一人が付いて履修指導などを行っています。また、学習相談室では大学院生が講義科目に関する学習サポートを行います。進路説明会では先輩学生が就職活動や大学院進学の実験談を語ります。その他、新配属生歓迎会など教員・学生の垣根を超えた様々な行事を行っています。



化学基礎A、化学基礎B、化学基礎実習a、化学基礎実習b、分析化学I、無機化学I、有機化学I、化学熱力学、生体分子化学I、分析化学実験、無機化学実験、有機化学実験、物理化学実験、生化学実験、無機化学II、有機化学II、化学統計学I、量子化学

これらのほかにも魅力的な授業科目がたくさんあります! 詳しくは理学部のホームページへ

化学プログラム卒業生の進路と就職先の例

進路として、大学院進学、高校・中学教員、公務員、公共機関の研究者などの専門技術職のほか、化学関係企業はもちろん、原材料・機械から生物・食品関係、IT関係企業まで、幅広い分野の県内外企業に実績があります。

就職先の例(順不同)

(株)北村製作所、(株)新潟ジャムコ、ユニオンツール(株)、(株)富士通新潟システムズ、(株)有沢製作所、(株)テック長沢、(株)ポラテクノ、岩塚製菓(株)、(株)タケショー、クリニカルサポート(株)、(株)長岡石油、北陸ガス(株)、ナミックス(株)、hakka(株)、(株)プロテックエンジニアリング、(株)ニラク、(株)アルバック、(株)東邦システムサイエンス、(株)フルヤ金属、(株)新日本科学PPD、保土谷化学工業(株)、信越ポリマー(株)、東洋製罐(株)、理研電線(株)、ケミプロ化成(株)、第一ファインケミカル(株)、(株)アサカ理研、東亜薬品(株)、住重試験検査(株)、日東メディック(株)、日鉄住金テクノロジー(株)、オリエント化学工業(株)

生物学プログラム



WEB

生き物の世界のなぞに挑む

Biology Program

<https://bio.sc.niigata-u.ac.jp/>

生物学プログラムでは、生物学を幅広く基礎から最先端まで学ぶことができます。生き物の世界のなぞを、自らの手で解き明かしたいという意欲を持った人に向いています。

生物学のすすめ

■生物学とは？

生きているとは？生き物が命をつなぐ仕組みとは？そのような「生き物」に関する謎を解くのが生物学です。

■お勧めポイントは？

- ・分子、細胞、植物、動物と多様な分野のエキスパート教員がそろっているので、生物学を幅広く基礎から最先端まで学ぶことができます。
- ・各人の進路希望や学習進度に応じてきめ細かい指導を行っています。

■研究の特徴は？

セルソーター、X線回折装置、共焦点顕微鏡、質量分析器、次世代シーケンサーなど最先端の機器を使って高度な研究を行っています。また、医学、農学、化学など他分野との境界領域に強い教員がそろっているので、応用研究にも強みがあります。生物学の確かな基盤を礎に、生命科学の様々な分野へと展開しています。

■教育の特徴は？

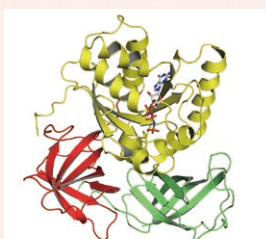
本プログラムでは生物について幅広く学びますが、他学部の生命科学系では範囲が限られる場合があります。医学部や薬学部はヒトの健康に関する生命科学ですし、農学部は食料や農業を対象とした生命科学です。生物を人の役に立つか立たないかで区別せず、広く学べるのが生物学プログラムの特徴です。総合プログラムでは、数学や化学など他のプログラムの専門科目を履修することで、生命科学の境界領域を学ぶことができます。



こんな研究をしています！

■生化学・分子生物学

- ・遺伝子発現系の研究：DNA上の遺伝情報に従い、タンパク質がどのように細胞内で合成されるのか、分子レベルで研究しています。
- ・糖鎖研究：ゲノム、プロテオームに続く、第三の生態情報分子システムである「グリコーム」解析や糖鎖の生命機能を探っています。



転移RNA運搬因子の立体構造

■植物学

- ・植物の環境応答：植物が光や重力、温度などの環境情報にตอบสนองするしくみや、核や小胞体、ペロオキシソームなどの細胞小器官が、植物の発生や環境応答で果たす役割を、シロイヌナズナやゼニゴケを利用して研究しています。



モデル植物シロイヌナズナの栽培

■動物学

- ・動物の発生学：ツメガエルの幼生を用いて形態変化（変態）のしくみを研究しています。
- ・恒常性の維持とその調節機構：動物の造血や免疫のしくみについて、モデル動物のマウスや培養細胞を利用して研究しています。



アフリカツメガエル

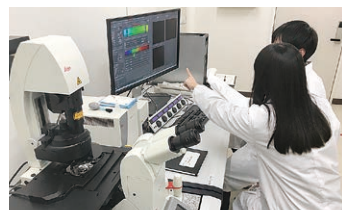


マウス

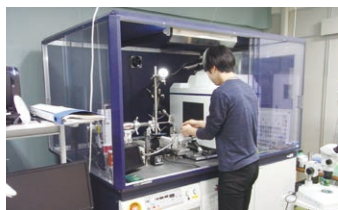
2つの学修方法(専門カプログラムと総合カプログラム)があります!

■専門カプログラム

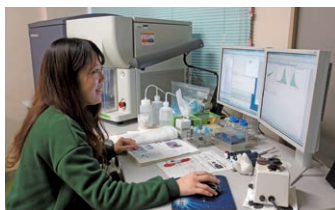
動物・植物のどちらにかたよることなく、生命科学の基礎を分子レベルから学ぶことができます。講義に加えて、様々な実習を履修することで生物学分野全般の高度な専門知識と技術を身につけることができます。



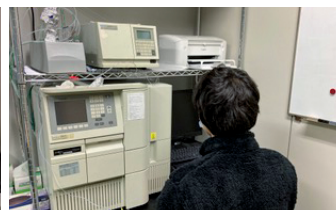
共焦点顕微鏡



X線回折装置



セルソーター



質量分析装置

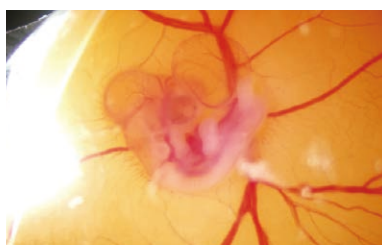
■総合カプログラム

生物学プログラムと他プログラムの専門科目群を合わせて履修することで、生命科学の境界領域を学ぶことができます。たとえば、数学もしくは化学プログラムを履修し生命情報学もしくはバイオプロダクト解析に通じる人材を育成することを目指しています。

こんな授業があります!

■発生生物学Ⅱ

動物間に共通に保存されている発生プログラムの普遍性を見出すことをテーマとして、動物発生に関するトピックスを解説しています。



ニワトリの胚

■基礎植物学

植物の営み、植物科学研究の現在や社会との接点などについて、植物科学の基礎知識や最近の研究成果とともに学びます。



授業の様子

■生物学実習

動物・植物の多様な生理機能は多くの生体分子により支えられています。生物学実習では細胞や組織の観察法、遺伝子やタンパク質の分析法など、生物研究に必要なさまざまな手法を学びます。



実習の様子

■課題研究(卒業研究)

4年生になると、学びの集大成として各教員の研究室に所属して卒業研究を行います。課題研究発表会では、1年間の研究の成果を発表します。



課題研究発表会

生物学基礎A、生物学基礎B、生物学基礎実習a、生物学基礎実習b、基礎植物学、基礎細胞生物学、基礎細胞遺伝学、基礎生物化学、生物英語、植物生理学、動物生理学Ⅰ、Ⅱ、発生生物学Ⅰ、Ⅱ、系統動物学、生体情報学Ⅰ、Ⅱ、分子生物学、細胞生物学Ⅰ、Ⅱ、生物化学、生物学総合演習、生物学実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、臨海実習Ⅰ、他

これらのほかにも魅力的な授業科目がたくさんあります! 詳しくは理学部のホームページへ

生物学プログラム卒業生の進路と就職先の例

進路として、大学院進学、食品や医療・製薬関連の民間企業や研究所、高校や中学の理科教員、国家公務員や自治体職員、警察官など、幅広い分野に実績があります。

就職先および進路先の例(過去5年間、順不同)

【食品関係】一正蒲鉾、くら寿司、日東ベスト、でん六

【医療・製薬関係】日本赤十字社、鳥居薬品、アステム、大鵬薬品工業、陽進堂、京野アートクリニック高輪、イーピーエス

【その他】国土交通省、秋田地方検察庁、県職員(福島)、市町村職員(熊谷市、三条市、上越市、板橋区)、高校教員(新潟)、中学校教員(新潟)、専門学校職員(神奈川)、ニコン、北陸ガス、日軽金アクト、巴工業、佐川急便、東京貿易ホールディングス、メビウス、住友生命、丸三証券、アグストリア、クスリのアオキ、鈴与シンワート、山形銀行、ビット・エイ、アクシアルリテイリング、日本土地建物、フラ、オープンハウスグループ、古河電工パワーシステムズ

【進学】新潟大学大学院、東京大学大学院、千葉大学大学院、東北大学大学院、奈良先端科学技術大学院、横浜市立大学大学院、金沢大学大学院

地質科学プログラム



YouTube



Twitter



WEB

君も地球探求のフロンティアへ!

Geology Program

<https://geo.sc.niigata-u.ac.jp/>

地質学は、野山を歩き回って岩石をみつけるところから始まります。野外に行ってみましょう。森の中でみつけた岩石には何が秘められているでしょうか?

地質科学のすすめ

■地質学とは?

地球に関する科学のうち、岩石を対象とする分野です。岩石は、地下深部のマグマ活動や変成作用、地球表層の水や空気の流れ、そこに生息する生物の進化・多様性、そして断層や褶曲などの地殻変動の跡、など多様な歴史を記録する「過去からの手紙」です。

■お勧めポイントは?

岩石を解読する知恵の結晶、そして新しい冒険の舞台が、地質学です。何も知らなければただの「石」や「かけ」が、実は地球の歴史を語る宝庫であると知る驚きが、地質学の大きな魅力です。高校で地学を履修している必要はまったくありません。岩石鉱物・化石、地震など、あるいは山・自然への興味が、地質学への良い入り口です。

■研究の特徴は?

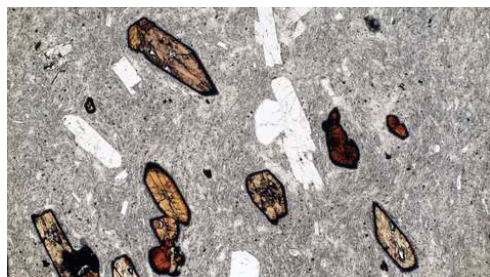
鉱物・岩石・地層・化石・断層など、「石」に記録されたあらゆることを対象に、活発な研究に取り組んでいます。卒業生は、資源探査・開発、土木・建設工事の設計、地震・火山・地滑りなど自然災害対策の分野の研究者・専門技術者として活躍しています。

■教育の特徴は?

野外実習を重視し、少人数教育できめの細かい指導のもと、地質調査能力の高い人材の育成を特色とします。専門力プログラムでは、高度な段階まで野外実習を行い、研究者・技術者としての基礎力を高めます。総合力プログラムでは、他学位プログラム科目を積極的に学び、学際的な視点からの課題解決能力を伸ばしていきます。



↑ 3億年前はサンゴ礁だった岩山(糸魚川世界ジオパーク)。絶滅した生物の化石がたくさんみつかります。

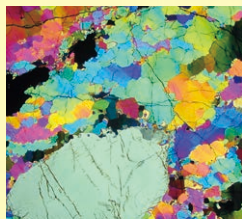


↑ 岩石を薄く切断して透き通るまで研磨したものを顕微鏡で観察すると、岩石を構成する鉱物の美しい配列が見えてきます。これは日本海形成時の火山活動を記録する安山岩です(写真の横幅は約1mm)。

こんな研究をしています!

■岩石学分野

火成岩や変成岩が形成される大陸地殻と海洋地殻を題材に、地球内部で起こっている物質のふるまいを探求しています。異なる形成過程を迎えてきた火山岩・深成岩・変成岩などを対象として、岩石の起源を解明します。



かんらん岩の偏光顕微鏡写真(北海道)

■地層・古生物学分野

地層や付加体、地層に含まれる化石などを題材に、地球表層の動態を解き明かす研究を進めています。古生代から新生代まで幅広い時代の地層を調査対象とし、大型化石と微化石のどちらも研究しています。



約4億年前の化石の内部構造

■構造地質学分野

断層や褶曲、あるいは鉱物組成をてがかりに、地殻で起こる変形について研究しています。どの研究も、日本の際立った地学的特徴のひとつである地震現象と結びつく研究となっています。



超大陸の衝突と成長を物語る褶曲(南極)

■鉱物学分野

走査透過電子顕微鏡を駆使した微細な鉱物の構造の研究を特色にしています。オングストローム(一千万分の一ミリメートル)のサイズの構造も追及します。対象として生体鉱物(生物が体内に分泌する鉱物)も扱うことが特徴のひとつです。



スベサルティンガーネット(柘榴石)

2つの学修方法(専門カプログラムと総合カプログラム)があります!

■専門カプログラムと技術士資格

地質科学専門カプログラムでは、高度な野外調査の方法を習得するとともに、地質科学の各分野を総合的かつ体系的に学びます。また、卒業すれば、下の表に示す「育成する技術者像」および「学習教育・到達目標」に基づく日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定を受けた修了生となり、卒業時に「技術士補」「測量士補」の国家資格が得られます。

●育成しようとする技術者像

綿密な踏査や観察に基づいて、地層・岩石の歴史性の認識や地下構造の三次元的な把握ができ、地圏の土木開発・資源開発・防災・環境保全等の分野で、計画性・協調性・実行力・倫理観をもって活躍する地質技術者。

●学習・教育到達目標

- (A) 良識ある技術者に必要な人文社会科学・情報科学などの基礎および語学・コミュニケーション能力を身につける。
- (B) 岩石・鉱物・地層の物質的性質について理解し、説明できる。
- (C) 岩石・鉱物・地層の歴史的性質について理解し、説明できる。
- (D) デザイン能力の一環をなす、社会の要請への地質科学の対応について理解し、説明できるとともに、技術者倫理を身につける。
- (E) 野外の地質に関するデータ取得とまとめができる。
- (F) 野外の産状に密着した地質学的課題を解決する計画を立案し、複数の解決策や与えられた制約を考慮したうえで計画的・自主的に情報を取得し、チームでの議論を経て、総合的に解析できる。これらを通じ、デザイン能力を身につける。
- (G) 収集した情報を整理・再構成して自ら表現できる。
- (H) 広範な問題解決のために、自然科学の基礎を身につけるとともに、地質科学の先端のトピックを理解し、説明できる。

■総合カプログラム

地質科学総合カプログラムでは、他学位プログラム科目を大幅に取り入れた学習を行うことで、地質学にプラスαの複眼的な視野を習得します。例えば、生物学分野や自然環境科学分野などの他学位プログラム科目を並行して学ぶことで、地質学と生物学の両方の知識を環境問題と結び付けて活用するような、応用力を身につけます。これにより、地質学以外の素養も重視するような環境アセスメント業などへの進路が期待できます。また、専門カプログラムと同様に、卒業時に技術士補の資格を得ることもできます。



↑野外での地質調査実習のひとつ。野外での詳しい観察が、新しい発見につながっていきます。

こんな授業があります!

■岩石学実験Ⅰ

岩石を鉱物レベルで調べるときの基本的な手法が、偏光顕微鏡を使った観察・測定です。実習では1人1台の顕微鏡を使って、基礎の原理から自分で採取した岩石の鉱物の同定まで、じっくり学習していきます。



偏光顕微鏡を用いた実習

■野外実習A

ハイレベルな地質調査技術の習得を目的とした3年次の実習科目です。安全面に配慮した計画的な調査を通して、地層からデータを取得する実践力を鍛えます。数km四方の地域にわたる地質構造や、地層から読み解ける地史についてプレゼンテーションします。



地学基礎A、地学基礎B、地学基礎C、地学基礎実習a、地学基礎実習b、地質学入門a、地質学入門b、構造地質学入門、地層・古生物学入門、鉱物・岩石学入門、環境地質学入門、地学英語、地質調査法Ⅰ、地質調査法Ⅱ、地質調査法実習Ⅰ、地質調査法実習Ⅱ、地質調査法実習Ⅲ、岩石学A、岩石学実験Ⅰ、テクトニクス、古生物学A、地層学A、野外実習A、課題研究、セミナー、他

これらのほかにも魅力的な授業科目がたくさんあります! 詳しくは理学部のホームページへ

地質科学プログラム卒業生の進路と就職先の例

進路として、大学院進学、地質コンサルタント業、地質調査業、建設コンサルタント業、資源・素材系企業(石油・セメント・金属等)、土木建設業、環境アセスメント業、ジオパークなどに関わる公共機関・博物館などの専門技術職のほか、幅広い分野の民間企業や公務員・教員・研究者などに実績があります。

就職先の例(順不同)

【資源・素材】三菱商事石油開発(株)、出光興産(株)、石油資源開発(株)、太平洋セメント(株)、住友大阪セメント(株)、三菱マテリアルテクノ(株)、クニミネ工業(株)、三井石油開発(株)、日本オイルエンジニアリング(株)
 【ゼネコン】日特建設(株) 【建設コンサルタント】応用地質(株)、川崎地質(株)、(株)日さく、八千代エンジニアリング(株)、(株)キタック、(株)興和、基礎地盤コンサルタンツ(株)、サンコーコンサルタント(株)

自然環境科学プログラム



WEB

自然環境を多角的視点で捉える!

Environmental Science Program

<https://www.sc.niigata-u.ac.jp/environment/>

理学の基礎学力を身につけ、地球科学、環境生物学、物質科学に関する講義や実験、フィールドの授業を通して、自然環境を多角的に捉える能力を養おう!

自然環境科学のすすめ

■自然環境科学とは?

自然環境の仕組みや変動を解き明かすには、自然現象を理学の多角的な視点から総合的に捉える能力が不可欠です。本プログラムでは、物理学、化学、生物学、地学の基礎を身につけた上で、自然環境を理解する上で重要となる地球科学、環境生物学、物質科学などを学ぶカリキュラムが組まれています。また、豊かな自然観を養うために、様々な分野の実習や実験科目を履修し、環境社会学も学びます。これらを通して、自然環境での様々な現象の解明に向けて新たな学理的発想で探求できる人材や、生態系や環境保全の方面で活躍できる人材を育成します。

■お勧めポイントは?

自然の仕組みを地球科学、環境生物学、物質科学といった専門分野において学び研究することができます。課題研究(卒業研究)では、少人数での密接な指導を通して個別のテーマで研究を行います。

■研究の特徴は?

本プログラムでは、地球科学、環境生物学、物質科学の専門分野の教育・研究を複数の教員が協同して遂行します。地球環境科学、環境生物学、物質循環科学の3つの教育・研究分野があり、4年次にはいずれかの分野に所属して課題研究を行います。

■教育の特徴は?

豊かな自然観を養うために、物理・化学・生物・地学の様々な分野の実習や実験科目を履修できます。人間生活や産業活動と密接に関連した経済学・法学などの環境社会学も学びます。

こんな授業があります!

■古環境学

過去は未来への鍵である。過去の地球史イベントの発生機構や過程を調べることで現在の地球の成り立ちを理解し、未来におこる現象を予測することができます。本講義では、氷期・間氷期サイクル、とくに最終氷期～現在の期間に焦点をあて、気候学、海洋学、地形・地質学のそれぞれの立場から最新のデータを用いて解説し、現在の環境がつくられた過程と仕組みを学びます。

■天文学概論

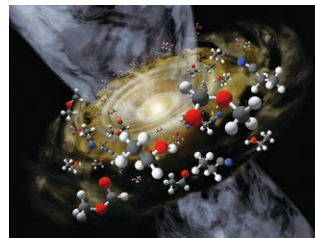
天文学は人類の歴史で最も古い学問の一つであるとともに、現代においてもめざましい発展を続けている分野です。また、近年では化学や生物学、惑星科学など他分野との関わりもより強くなってきています。この講義では、天文学が研究対象とする様々な天体や天体现象の理解に関する基礎知識や考え方を習得していきます。さらに、星や惑星の材料となる星間物質について、その物理・化学過程から観測手法まで詳しく学びます。

■進化生物学 a

脊椎動物は約5万種いるとされ、そのうちの半分は魚類として水中で適応放散し、もう半分は四足類(両生類・爬虫類・鳥類・哺乳類)として陸上で適応放散し、多様化しています。講義では、各分類群の解剖学的な特徴を学んで脊椎動物の進化を理解するとともに、形態多様化の根底にある設計図としてのゲノムの果たしてきた役割についても学びます。



古環境学の授業の様子



多様な星間分子に包まれた生まれたばかりの星の想像図



クラミドモナス(緑藻)の電子顕微鏡観察



自然環境科学実験 B2の様子



新潟発祥の多様な模様の錦鯉



自然環境科学実験 C2の様子

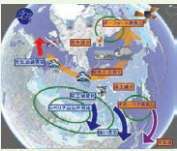
これらのほかにも魅力的な授業科目がたくさんあります! 詳しくは理学部のホームページへ

こんな研究をしています!

■地球環境科学分野

地球環境科学分野では、気象・大気・海洋・山岳・雪氷・火山などを対象とした研究を行っています。現地調査や調査・観測データの解析、理論・数値シミュレーションなどの手法を駆使して、自然現象の発生メカニズムや災害の危険度評価・対策技術の検討に取り組んでいます。研究対象は豪雨・豪雪竜巻・突風など新潟地域の極端気象や大陸～全球スケールの大気海洋大循環・エネルギー収支・気候変動、アジア山岳地域（天山山脈、ヒマラヤ、日本アルプスなど）の山岳氷河や山岳永久凍土、地球上・外の火山噴火・地形など多岐に渡ります。

- ・山岳環境研究室（地形・GIS）
- ・大気海洋システム研究室（気象・海洋物理）
- ・惑星火山研究室（惑星・火山）



大気海洋システム研究室では、UNIX環境におけるプログラミング、高層天気実況図及び予報図を用いた気象解析の技術が身に付きます。



山岳環境研究室では、研究を通して、山岳調査の方法、GISやリモートセンシングの技術を修得でき、GIS学術士を取得できます。



伊豆大島での火山地質調査



三陸沖航海での上空気象観測の様子



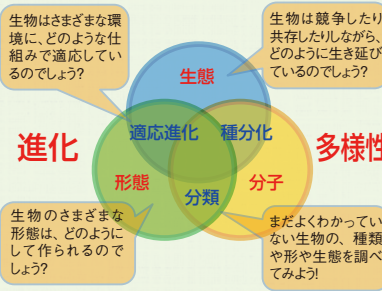
白馬大雪渓でのドローンによる空中写真測量

■環境生物学分野

生物の多様性を理解し、生物がどのように環境に適応しながら分化し、進化してきたのかを明らかにする研究を行っています。細胞生物学、発生生物学、分類学、生態学を専門とする教員がいて、環境適応に関わる細胞内小器官の相互作用解析、魚類の形態進化やゲノム進化の研究、植物と昆虫の種間相互作用の解析、海産動物の生態や形態の解析、藻類の細胞やオルガネラの増殖機構の解析などを行っています。

- ・無脊椎動物学研究室
- ・細胞機能形態学研究室
- ・動物進化発生学研究室
- ・植物生態学研究室
- ・生体分子解析学研究室
- ・藻類細胞進化化学研究室
- ・進化多様性生物学研究室

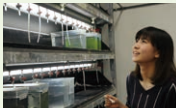
環境生物学分野では、生物学プログラムでは学ぶことのできない、野外生物の分布や生態、生物の多様性や進化について学ぶことができます。



五十嵐浜での海浜植物調査



新潟沖日本海でのカゴ網を使った海産底生動物の採集



胚サンプルを得るために、熱帯魚を繁殖飼育

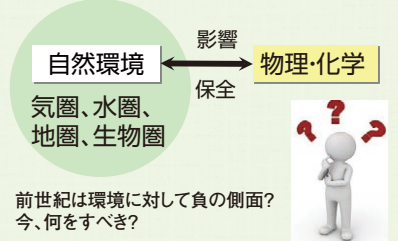
■物質循環科学分野

3つの研究室の教員が協力し、気圏・水圏・地圏における超微量成分の分布や循環に関する分析化学的研究、大気組成原子分子の反応素過程やエネルギー状態の解明、また宇宙空間における分子の化学進化などの実験的・観測的な国際研究に取り組んでいます。

- ・海洋地球化学研究室
- ・宇宙物質進化研究室・実験グループ
- ・宇宙物質進化研究室・観測グループ

保全・共生に関わる物質科学の探究は、私達の分野ならではの取り組みです!

- －気圏・水圏・宇宙における原子・分子・元素の反応や循環を調べる。
- －汚染物質の地球表層へのインパクトを調べる。
- －環境水の信頼できる分析法を生み出す。



天然水中に存在する超微量成分の蛍光分析



イオンクロマトグラフィーによる酸性雨の分析



極低エネルギー領域での多価イオン衝突反応実験



海水中元素同位体の化学分析の様子

課題研究

4年次に取り組む課題研究では、これまでの講義で修得した知識や手法を、実際の課題に適用することにより、それらを確実に自分のものとし、研究活動を通して得られた成果をまとめ卒業論文を仕上げます。年度末におこなう課題研究の発表会でその成果を発表します。



課題研究発表会口頭発表

自然環境科学プログラム卒業生の進路と就職先の例

卒業生は、自然環境と人間の好ましい共存関係を探求する人材として、新エネルギー開発に携わる人、災害や環境汚染問題に取り組む人、生物の保護や環境保全に関わる人、および、環境施策に関わる人など、さまざまな分野で活躍しています。また、卒業生の約半数は新潟大学等の大学院に進学し、より高度な研究に携わっています。

就職先の例(順不同)

新潟県庁、福島県庁、群馬県庁、山形県庁、宇都宮市、大仙市、気象庁、防衛省、財務省、農林水産省、中学校教員、高等学校教員、ニトリ、福田組、本間組、興和、キタック、東京電力、北陸ガス、宇宙技術開発、東電タウンプランニング、豊田通商、キャンノイメーシングシステムズ、アイザック、秋田県農業共済組合、JAライフサービス越後中央、えちごトキめき鉄道

進学先の例(順不同)

新潟大学大学院、筑波大学大学院、北海道大学大学院、九州大学大学院

フィールド科学人材育成プログラム



WEB

自然が好きなキミへ。学びの答えは、フィールドにある。

Program of Field Research in the Environmental Sciences

<https://fres.nu.niigata-u.ac.jp>

フィールドに出て、見て、触れて、調べて、野外の課題に
対応できる実践力を身につける！

フィールド科学のすすめ

■フィールド科学とは？

本プログラムは、理学部と農学部の教員が協働で授業や実習を担当する学部横断型プログラムで、「生態学」・「環境動態」・「災害科学」の3つの柱からなります。「生態学」は生態・森林再生・保全学、「環境動態」は海洋・気象学、地形・地質学、「災害科学」は自然災害科学・砂防学・防災学などがあり、これらをまたがる多彩なフィールド科学分野の講義および実習科目を用意しています。これらの豊富な科目群の学修やフィールドでの実習体験を通して、野外の様々な場面での問題解決に必要な科学的知識と実践的な技術を身につけます。

■お勧めポイントは？

理学部と農学部のフィールド科学に関する講義を履修できます。フィールドに関する高度な専門的知識・技術とそれを現場で活用できる実践力を身につけることができます。

■教育の特徴は？

理学分野における生態学、海洋科学、気象学、地形・地質学等の基礎科学と、農学分野における野生植物・野生動物生態学、森林再生・保全学、砂防学、リモートセンシング等の応用科学、それに災害復興科学研究所における斜面災害、雪氷防災などの防災学に関する講義に加えて、佐渡自然共生科学センターの施設である演習林(森林)、朱鷺・自然再生学研究施設(里山)、臨海実験所(海洋)で実施されるフィールド実習を通して、基礎から応用にいたる幅広い知識・リテラシーを身につけることができます。

■研究の特徴は？

理学分野と農学分野、さらに関連する研究所の研究室で研究活動が可能です。佐渡自然共生科学センター、災害・復興科学研究所との協働体制をとることで、生物や環境の長期調査・モニタリングを実施できる機会を提供し、より実践的な研究を行います。



こんな授業があります！



フィールド安全論、フィールドワーカーのためのリスクマネジメント実習

地形フィールド実習

地質フィールド実習



野生植物生態学実習

化学基礎実習

臨海実習I

防災系演習及び実習

理学部と農学部の教員が協働でおこなう特色ある授業構成(詳しくは理学部HPへ!)

こんな研究をしています!

■植物生態学研究室

野外に生育する植物を対象に、植物の生き方（生活史）や環境への適応を明らかにする研究を行っています。また、植物と昆虫の「食う一食われる」の関係に着目し、植物の被食防御戦略の多様性や、植物-昆虫間の相互作用の形成・維持メカニズムや他の生物への影響を調べています。



野外での植物調査の様子

■海洋地球化学研究室

海洋で起こる様々なプロセスや海洋の状態を調べるために、海水中に存在する微量元素とその同位体に着目した観測・分析・解析的な研究を行っています。研究室のメンバーと共に海洋の新発見をなしたいと考えています。海洋の化学は炭素循環や気候変動とも密接に関係する重要な学問分野です。



インド洋における船上での海洋観測

■山岳環境研究室

天山山脈、ヒマラヤ、日本アルプス、新潟の山地や丘陵を対象に、現地調査・観測、GIS、衛星画像解析の手法を用いて、山岳氷河や山岳永久凍土の雪氷圏変動や、氷河湖決壊洪水や斜面崩壊（落石や崩落）による地形災害など、山岳地域で現在起きている事象について研究しています。



北アルプス、杓子沢氷河での現地調査

■大気海洋システム研究室

豪雨豪雪・竜巻突風など新潟地域の極端気象から、大陸～全球スケールの大気海洋大循環まで、観測・データ解析をはじめ理論・数値シミュレーションなど多様な研究手法を用いて、グローバル・ローカル双方の視点から、大気や海洋のさまざまな謎に取り組む研究室です。



柏崎市上空の気象を観測するラジオゾンデ放球の様子

■惑星火山研究室

火山は火星など太陽系の全ての固体惑星に存在します。これら地球外の火山を研究対象とすることで、重力や大気など地球固有の条件に依らない普遍化された火山学、惑星火山学への新局面を切り開くことが可能となります。本研究室では、リモートセンシングデータの解析やフィールド調査、室内実験などを通して、惑星火山の形成メカニズム解明や表層環境の推定に取り組んでいます。



アイスランドでの火山地質調査

■臨海実験所

豊かな自然環境と生物相が残る佐渡島をフィールドとして、海や河川に生息するさまざまな生物の生態や生理、行動の多様性とその進化的意義について研究しています。フィールド調査や採集から個体レベルの生物実験、細胞・分子レベルの解析まで最新の手法を用いて研究しています。



佐渡湾における調査船を用いた海洋生物調査

上記のほかにも多くの研究室で多彩な研究活動を行っています。
詳しくはHPへ!

フィールド科学人材育成プログラム卒業生の進路と就職先の例

卒業後は、フィールドで課題を解決できる実践力を生かして、国内外のさまざまな分野で活躍することが期待されています。さらに研究活動を継続したい学生は、新潟大学大学院に進学することにより特色ある最先端のフィールド科学研究に取り組むことができます。

就職先の例（順不同）

一般企業：環境・建設・水産コンサルタント、環境アセスメント、グリーンインフラ関連技術者、航測関係企業、造園・緑化関係企業、自然保護NPO、報道機関、エコツアーガイド、山岳ガイド、学芸員（博物館・植物園）など
公務員：国土地理院、防災科学研究所、国際協力機構（JICA）、環境省、国土交通省、気象庁、水産庁、東京都庁など

進学先の例（順不同）

新潟大学大学院、東京大学大学院、京都大学大学院、東京農工大学大学院、九州大学大学院など

佐渡自然共生科学センター

<https://www.sices.niigata-u.ac.jp>

Sado Island Center for Ecological Sustainability

森・里・海で
学ぶ自然との共生



WEB

佐渡島の森里海を活かした教育・研究センター

新潟大学佐渡自然共生科学センターは、佐渡島の森里海の連携を科学する3施設からなる総合的な教育・研究センターです。森林領域の演習林はスギ天然林やその生物多様性を利用した教育研究を、里山領域の朱鷺・自然再生学研究施設はトキの野生復帰や里山の自然再生を支援する教育研究を、海洋領域の臨海実験所は様々な海岸環境に生息する海洋生物の多様性と進化に関する教育研究を行っています。また、本センターは、佐渡市と連携して地域貢献を積極的に推進すると共に、国際連携にも取り組んでいます。

海洋領域	里山領域	森林領域
臨海実験所	朱鷺・自然再生学研究施設	演習林
		



海 海洋領域 / 臨海実験所

<https://www.sc.niigata-u.ac.jp/sc/sadomarine/>

Sado Marine Biological Station



WEB

臨海実験所では、海洋生物の多様性とその成り立ちを明らかにすることを目指すとともに、理学部の学部生ならびに自然科学研究科の大学院生を対象に、海洋と海洋生物についての高度な知識を持った人材を育成しています。また、教育共同利用拠点として、国内外の大学から学生を受け入れて、公開臨海実習や国際臨海実習を実施しています。臨海実験所には、4名の教員が常駐し、海洋生物の適応と進化に関する研究を行っています。



臨海実験所全景



実習調査船アイビスII



シュノーケリングによる磯生物の採集



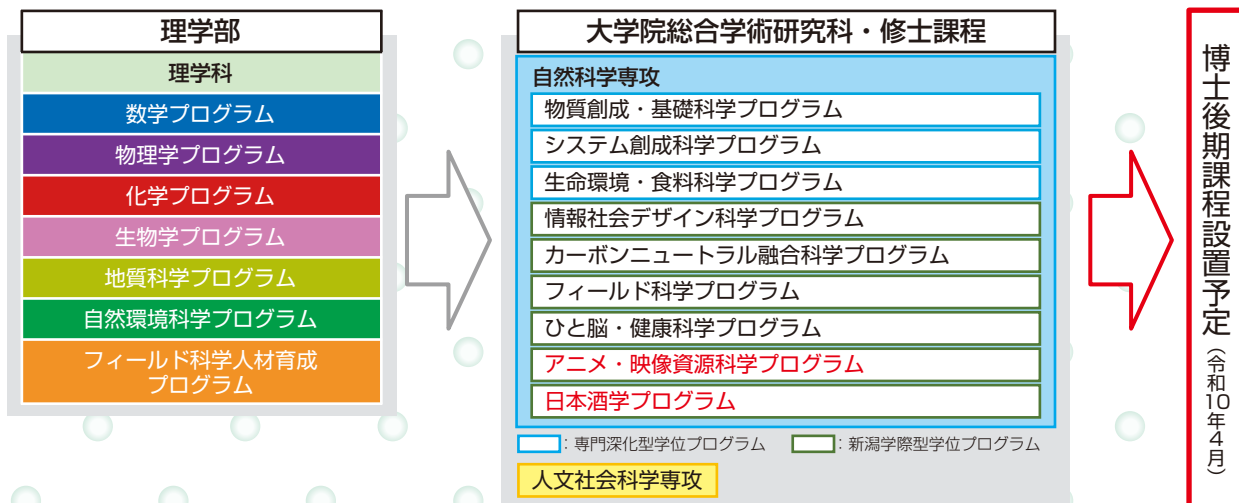
砂浜の生物採集

大学院総合学術研究科

Graduate School of Integrated Arts and Sciences

学部卒業後、希望すれば、さらに高度な教育研究へ進むことができます。新潟大学では、理学部・工学部・農学部などの理系学部と文系学部の上に位置する大学院総合学術研究科が令和8年度に設置されました。この大学院は「異なる分野の教員が協力しあって教育・研究指導に当たり、高度な専門性の高い研究能力のみでなく、複数の領域を横断する幅広い視野と豊かな創造性を持ち、ライフ・イノベーションのフロントランナーとして地域や世界の着実な発展に貢献する人材の養成を目指す。」との理念で設立されました。修士課程(2年)に2専攻・11プログラムを設け、学部および大学院自然科学研究科・大学院現代社会文化研究科の博士後期課程との連携にも配慮して、大学院における一貫した教育研究体制を整えています。修士課程を修了すると修士の学位が授与されます。また、令和10年4月に設置される予定の博士後期課程を修了すると博士の学位が授与されます。

※本計画は、文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査の結果によって確定するものであり、変更の可能性があります。



理学部と大学院との連携による教育カリキュラム

大学院授業の先取り履修制度など、大学院課程と連携した教育を充実し、専門力と課題解決力を身につけた理系人材を育成します。



総合研究棟 (環境・エネルギー棟)
[Environmental Science and Energy Science University Institute Center]



管理・共通棟 (左) と情報理工棟 (右)
[Main Building (left) and Information Science and Engineering Building (right)]



物質生産棟 (左) と生命環境棟 (右)
[Material Science and Technology Building (left), and Life Science and Environmental Science Building (right)]



数学プログラム

令和7年度
新潟大学大学院
自然科学研究科 博士後期課程
数理物質科学専攻 修士

日本学術振興会 特別研究員

遠藤 凌輝



大学の数学プログラムは「数学の面白さを追求し、興味の深さを試される場所」だと私は思います。自分の心で数学の面白さを感じるためには、自分の心でしっかりと数学を理解する必要がありますし、他の人に数学の面白さを伝えるためには、正しい論理で順序よく熱意をもって伝える必要があります。

一見、数学は自己完結的な心の中の活動のように見えますが、数学の面白さは誰かと共有するとさらに深まります。心の一番深いところでひとりで考えたことが、今まで関わりのなかった方と学会などで共有できたときは心の深いところでつながりを感じがします。

数学プログラムには、黙々と考える時間と周りの人と学び合う時間の両方があります。ぜひ自分のペースで気になったことを大切にしてみてください。数学への興味が、数学を楽しいと思えるときも辛いと感じるときも皆さんを支えてくれると思います。皆さんが自分なりの面白さを見つけて、実りある日々を過ごされることを応援しています。

数学プログラム

令和6年度
新潟大学大学院
自然科学研究科 博士後期課程
数理物質科学専攻 修士

日本学術振興会 特別研究員

江幡 隆典



私（写真右）は現在、大学院博士後期課程で偏微分方程式の研究をしています。偏微分方程式とは、流体の動きや熱の伝わり方、波の広がりなどを記述する数学の分野で、物理学や工学、生物学など様々な分野と関わっています。

大学生活の魅力は、講義や研究だけでなく、仲間との交流もたくさんあることです。理学に興味を持つ友人たちと、数学や科学の面白さについて議論したり、時には研究室の仲間と共に問題を解決したりすることは、学びをより充実したものにしてくれます。また、所属している研究室では、毎週のゼミナールが終わった後に、みんなでご飯を食べに行ったり、お酒を飲みに行ったりするなど、学問以外の楽しみもたくさんあります。さらに、大学生活ではサークルや部活動、アルバイトなども行うことができます。研究や学業に励みながらも、自由な時間を活用して色々な活動を行うことができるのも、大学ならではの魅力です。

理学部での学びは、知的な刺激にあふれ、多くの可能性を広げてくれます。みなさんが理学の世界で自分なりの探究を深め、充実した大学生活を送れることを心より願っています。



先輩からのメッセージ

物理学プログラム

新潟大学大学院
総合学術研究科
修士課程自然科学専攻
物質創成・基礎科学プログラム 在学中

平塚 蒼天



僕は中学生の頃から理科が好きで、特に科学雑誌を通して宇宙や物理の分野に親しんできました。高校でも物理を選択し、これまでに得た知識をより深く理解できるようになり、物理学そのものへの興味が一層強まりました。僕はこうした経験から、物理を専門的に学びたいと考え、理学部物理学プログラムへの進学を決めました。現在は太陽の表面で起きる爆発現象についてそれがどう駆動しているのかを研究しています。

大学で学ぶ物理は、高校までに学んできた物理とのギャップが大きく、やる気を失ってしまった時期がありました。それでも僕は家族に支えられながら地道に勉強を続けることで、理解を少しずつ進めることができました。物理は長い時間をかけて理解していくのだと気づけたことは、その後の卒業研究においても研究を根気強く続ける原動力となりました。

皆さんは大学生活の中で勉強や進路のことで悩むことがあるかもしれませんが、大学には多種多様な人たちが集まっており、悩みを相談できる相手がきっと見つかります。また、人に話しかけ、自分の知らなかった世界を知ること、大学生活の醍醐味です。勉強や進路以外のことでも、いろいろな人に話しかけ、相談し、充実した四年間を過ごしてください。

物理学プログラム

令和6年度卒業

東亜工業株式会社 勤務

山本 唯都



私は高校時代に全科目の中で最も興味があった物理学を大学で深く学んでみたいと思ったことから、理学科物理学プログラムに所属することを決心し、新潟大学理学部へ進学しました。しかし、入学したばかりの頃は、大学で学ぶ物理学が高校時代に学んだ物理学とは全く異なる学問のように感じるが多々あり、このまま大学物理の勉強を続けることができるのかと不安に襲われることも少なくありませんでした。そんな中でも、諦めずに教科書を熟読したり、度々登場する数式の意味を考えたりしながら日々勉強に励む中で、高校物理とのつながりを見出すことができた時は、高校物理を学んだ時にはよく理解し切れていなかった事柄の意味を理解できたことに気づき、嬉しい気持ちになると同時に、これまで勉強を続けてきて良かったと思うこともとても多かったです。

私の大学生活は多くの人々に支えられて成り立っていたと強く感じます。先述の通り、私は勉強面での不安が強かったですし、その他にも多くのことで悩みました。そんな時、私はよく誰かに悩みを聞いてもらっていました。誰かに悩みを聞いてもらうと、それだけで気持ちが楽になったり、視野が広がって解決のための様々な選択肢があることに気づいたりします。

これからも皆さんの学生生活が充実したものになるように願っています。

化学プログラム

令和7年度
新潟大学大学院
自然科学研究科 博士前期課程
数理解物質科学専攻 修了

三菱電機株式会社 勤務

沖 京典



皆さんは勉強がお好きですか。勉強をしていると、「これが何の役に立つのだろう」と思ったことはありませんか。事実、高校までの勉強は、勉強そのものが目的になっていることが多いように感じます。しかし、大学は違います。大学は、学んだ内容と現実をつなげる場所です。

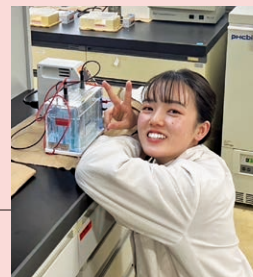
私の研究においても、学んできた知識では説明できない実験結果が得られたことがありました。そのときは、自分の理解が間違っているのではないかと何度も考えました。実験を繰り返し、さまざまな論文を読み直しながら、原因を探し続けました。しかし、すぐに納得のいく説明にたどり着けたわけではありません。思うように進まず、迷いや焦りを感じることもありました。実際、満足のいく解釈にたどり着けたのは最後の最後でした。実験的な検証が難しい状況もありました。それでも好奇心に従い研究を続け、世界の仕組みと向き合い続けた経験は、何ものにも代えがたい財産となりました。

新潟大学では入った後にプログラムを決めることができ、その中でも化学プログラムには幅広い分野があります。大学院も含めた六年間という時間は長いようでいて、夢になって答えを求めていればあっという間に過ぎていきます。ぜひ、新潟大学理学部の扉をたたいてみてください。

化学プログラム

新潟大学大学院
自然科学研究科 博士後期課程
数理解物質科学専攻 在学中

小林 環



私は高校時代にやりたいことが明確に決まっていたわけではなく、多くの学部と迷いましたが純粋に化学そのものを学びたいと思い理学部に進学しました。化学といっても様々な分野に分かれており、はじめは興味がなかった分野も講義や実験を通して面白いと感じるようになりました。学部4年生からは研究室に配属され、研究生活が始まりました。研究はこれまで学んだことを活かしながらも、まだまだ自分の知らないことが広がっていると実感できるとも面白い世界です。研究の魅力に取り憑かれ、博士前期課程修了後も博士後期課程に進学し研究を続けます。大学での生活は学部の4年と大学院の2年を合わせた6年間、とばかり考えていた高校時代の自分からは想像もできなかった選択ですが、大学で化学を学び研究に出会ったからこそ知ることができた世界に飛び込むことにとてもワクワクしています。

大学は様々な人に出会い、多くの豊かな経験を積み重ねることが出来る場所です。自分で興味のあることを学び、今後の人生を自ら選択していくのは簡単なことではありませんが、ぜひいろいろなことに挑戦し楽しんでほしいです。自分のやってみたいことや進んでみたい道が見つかり、人生の幅が広がると思います。

生物学プログラム

新潟大学大学院
自然科学研究科 博士前期課程
生命・食料科学専攻 在学中

阿部 朱里



私は生物を扱った研究ができる、且つ中学校と高校の理科の教員免許を取得することができることから本学の理学部に進学しました。現在は、シロアリの長寿個体がつもつ抗酸化酵素について研究を行っています。

大学では専門の生物学の授業のみならず、美術や歴史など他学部開講の授業も自ら選択して受けていました。専門以外の学問について学ぶ機会が得られるのは、本学のような総合大学ならではの魅力だと感じます。また専門の生物の授業としては、佐渡島の臨海実験所での臨海実習が特に印象に残っています。佐渡のきれいな海での生物採集や、図鑑を頼りにした生物の系統分類、そして他大学の学生との交流もあり、普段の座学では体験できない活動的な学びが得られました。

私は入学当初、将来は教員になるか一般企業に就職するかを迷っていました。私は本学の理学部で、生物学を学びながら教職課程を履修したことで、生物学や研究のおもしろさを知り、将来の進路を一般企業に見据えることができました。そして同時に教員免許を取得し、今後必要とされる職業である、教員の道も確保できたので、将来的にも安心感が得られて良い選択だったと思います。ぜひ学ぶ楽しさを味わいながら、自分がおもしろいと感じることを見つけてください。

生物学プログラム

新潟大学大学院
自然科学研究科 博士前期課程
生命・食料科学専攻 在学中

坂上 紘也



生物学の捉えどころのない魅力は、私たち自身もまた生物であることに由来するのかもしれませんが。生き物とは何なのか。どのような仕組みで成り立っているのか。どこから来て、どこへ向かうのか。こうした根源的な問いに、明確な答えはまだありません。しかし、生物学という「窓」を通して世界を見つめることで、その一端に触れられる瞬間が訪れるかもしれません。

2年次の第2学期から生物学プログラムに配属されると、講義や実習を通じて、生物学の基礎知識や技術、そして科学的な思考力を養うことができます。4年次には、自ら選んだ研究室で特定の課題に取り組み、本格的な研究を進めます。元来昆虫好きな私は「超長寿昆虫」に興味を持ち、そのような生き物を研究できる研究室を選択しました。

研究活動は試行錯誤の連続ですが、新たな知見を得る楽しみは何ものにも代えがたいものです。生物学の魅力は、まだ解明されていないことが無限に広がっていることにあります。教科書に載っている知識はほんの一部にすぎず、自らの手で新たな知を発見できる可能性があります。それこそが研究の醍醐味であり、好奇心・探究心こそが研究の原動力になります。ぜひ、自分の興味を大切に、未知の世界への扉を開いてください。

地質科学プログラム

令和7年度卒業

新潟市立学校 理科教員 勤務

大坂谷 日菜



私は高校まで、地学という科目にほとんど触れてきませんでした。岩石や化石について特別な知識があったわけでもありません。ただ、新しいことを知ったり、まだよく分かっていないものを探求したりすることは好きでした。そんな気持ちから、ひよんなきっかけで地質という分野に興味を持ち、このプログラムを選択しました。

実際に学び始めてみると、地質学は想像していた以上に幅広く、興味深い学問でした。岩石や鉱物、化石といった身近な対象をひとつひとつ読み解いていくことで、地球環境の変化や生命の歴史、さらには惑星の成り立ちまでも、私たちは地質学を通して知ることができるのです。

ふと周りを見渡してみてください。あなたの足元にある石や、地面の下に広がる地層。普段は何気なく見過ごしてしまう小さなものの中に、地球が歩んできた長い歴史が刻まれていると思うと、なんだかワクワクしませんか？

地質学は一見すると、限られた分野のように思える学問ですが、実際はさまざまな分野につながる奥行きのある学問です。地学をこれまで学んできた人はもちろん、私のように「新しいことを知りたい」という気持ちから興味を持つ人にとっても、この分野は開かれています。どんな小さなきっかけでも、その好奇心が地質学への第一歩になるはずです。

地質科学プログラム

令和6年度
新潟大学大学院
自然科学研究科 博士前期課程
環境科学専攻 修了

独立行政法人
エネルギー・金属鉱物資源機構 勤務

福田 倫太郎



皆さんの中には、子供の頃に川や海で面白い形や模様の石を探したり、図鑑で格好良い恐竜や綺麗な鉱物を眺めたりしたことのある人がいるのではないのでしょうか？そんな幼少期の興味を突き詰めていくうちに「地質」を学びたいと思うようになったひとりが私です。

地質科学プログラムでは、3年生までに野外で地質を学ぶ授業が多く開講されており、地球の成り立ちを広く勉強することができます。4年生以降の私は、地下深部でできたグラニュライトという変成岩を手掛かりに、日本列島の形成過程を解明する研究に取り組みました。研究地域はヒグマも生息している北海道の山でしたが、地元の方々から温かい支援もあり、1人で年2回の調査を行うことができました。また、インドで化学分析を学ぶ3か月間の研究留学も経験しました。先輩や後輩、同級生と交流する機会が多く、悩みや研究の相談に乗ってくれる仲間や先生にも恵まれました。このように、自分の好きなことを深く学べた充実した6年間となりました。

大学では自分でやりたいことを選択できます。単位だけを取って卒業することもできますが、ぜひ自分の興味を突き詰め、自分を大きく成長させられる大学生活にしてくださいね。



先輩からのメッセージ

自然環境科学プログラム

令和7年度卒業
新潟大学大学院
総合学術研究科 修士課程
自然科学専攻
生命環境・食料科学プログラム 在学中



福原 さくら

私は学びたい分野を一つに決めることができず、物理・化学・生物・地学を幅広く学べる点に魅力を感じて、自然環境科学プログラムを選択しました。さまざまな学問分野に触れることで、自分の興味を見つけることができると考えたからです。入学後は高校で履修していなかった分野の授業に苦労することもありましたが、友人と助け合いながら理解を深めてきました。

現在は「雪」について研究を行っています。例えば、雪の堆積・融解過程を理解するためには、雪の結晶構造や雪質の変化、積雪の層構造、気象などの物理・化学・地学的視点に加え、生物活動がその過程に与える影響という生物学的視点まで、多角的な視点が求められます。研究を進める中で、専門を絞った後も他分野での学びが無駄になることはなく、むしろ理解を深める上で重要であると実感しました。

新潟大学には、専門以外の分野を学べる副専攻制度があったり多くの部活・サークルがあったり、自ら行動すればさまざまなことに挑戦できる環境が整っています。皆さんが多くのことに挑戦し、多様な視点に触れながら充実した大学生活を送られることを願っています。

自然環境科学プログラム

新潟大学大学院
自然科学研究科 博士前期課程
環境科学専攻 在学中



阿部 遥斗

私は自然豊かな田舎町で育ったことで漠然と「自然環境」に興味を持ち、本学の理学部に入学・自然環境科学プログラムを選択しました。学部4年次からは、海洋中の懸濁粒子態微量元素の分析について研究を行っています。

本プログラムの魅力は、物・化・生・地の幅広い知見を身に付けることができる点です。大学で学ぶ理学は高校で学ぶものとは大きく異なるため、高校生の時は全く興味のなかった分野に興味を持つこともあつたし、その逆もあるでしょう。このプログラムでは、海底から宇宙まであらゆる自然現象を学ぶことができるため、視野を狭めずに理学の全体を俯瞰し、その上で自身が本当にやりたい学問を追求できる環境があります。また、多様なフィールドワークを行えることも魅力です。研究対象が海外の山岳や海洋であることも珍しくなく、実際に現地へ赴くという貴重な体験をすることができるかもしれません。私自身、これから2か月間の外洋航海を控えており、現在期待と不安でいっぱいです。

大学生活はあっという間に過ぎていってしまいます。学業だけでなくサークルやアルバイトも含め、何か一つでもこれは頑張ったと言えるものを作れると、大学生活が良い財産になると思います。

フィールド科学 人材育成プログラム

令和7年度卒業
新潟大学大学院
総合学術研究科 修士課程
自然科学専攻
フィールド科学プログラム 在学中

李 佳融



私は幼少期から野外で遊ぶのが好きで、理学部理学科フィールド科学人材育成プログラムを専攻しました。本プログラムでは、生態学や地形・地質学、気象学など様々な分野について学ぶことができました。また、それらに関する野外実習も豊富にあり、座学で学んだことを肌で感じることができました。

現在、私は植物生態学研究室に所属しており、主に野外で植物の調査を行い、その生態について研究をしています。猛暑の中の野外調査や回収した大量のサンプルの測定など、研究の中で苦労したことはいくつもあります。趣味に没頭する時間を作ることでリフレッシュしています。

大学生活の4年間は勉強だけでなく、サークル活動やアルバイトなど様々な経験ができる時間です。ぜひ大学生活の中で、様々なことに挑戦してみてください。また、その中でこれまで以上に多様な人と出会うことができると思います。その出会いからたくさんの刺激を受け、価値観を欲します。最後になりますが、皆さんの大学生活が充実したものになることを心から願っています。

フィールド科学 人材育成プログラム

新潟大学大学院
自然科学研究科 博士前期課程
環境科学専攻 在学中

深井 ころり



私は高校時代のフィールドワークを通じて、その魅力に強く惹かれました。その後、進学先を調べる中で「フィールド科学人材育成プログラム」という魅力的な名前を見つけ、新潟大学で学ぶことを決めました。

このプログラムでは、生物や災害、気象、地質など幅広い分野を学べるのが特徴です。入学当初は動物にばかり興味がありましたが、生物以外の分野について学ぶことで視野が広がり、今では自然環境全体に関心を持つようになりました。また、座学だけでなく野外の実習が多いことも、このプログラムの大きな魅力です。自分の足で現地に赴き、調査や観察を行うことで得られる知識や達成感、教室での学びだけでは得られません。私自身、実習を通して動物についてより深く知りたいと思い、現在は野外でカエルを追いかけ、その行動を研究しています。研究は大変ですが、野外調査で自ら収集したデータから新しい発見を得られたときの喜びや楽しさは格別です。

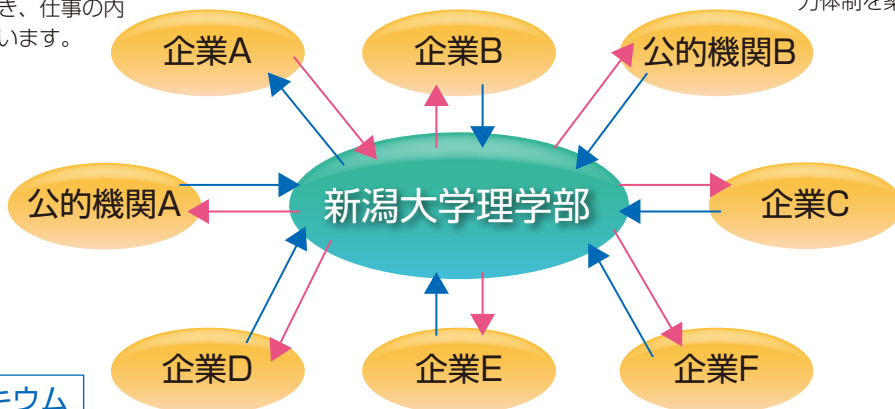
大学生活の4年間は、勉強だけでなく多くの経験ができる時間です。また、自分から行動することでたくさんの道が開かれます。皆さんの4年間で充実し、素晴らしいものとなることを心から願っています。

理学部キャリアフォーラム ～学生のキャリアパス形成を支援する～

科学・技術と社会

理学と社会とのつながりに焦点をあてた授業です。企業・公的機関から講師を招き、仕事の内容を紹介してもらいます。

50の企業・公的機関



理学部コロキウム

企業・公的機関から研究者を招き、最新の研究を話してもらいます。

インターンシップの受け入れ

キャリアフォーラムの企業・公的機関との間でインターンシップ実施のための協力体制を築いています。

キャリアガイダンス

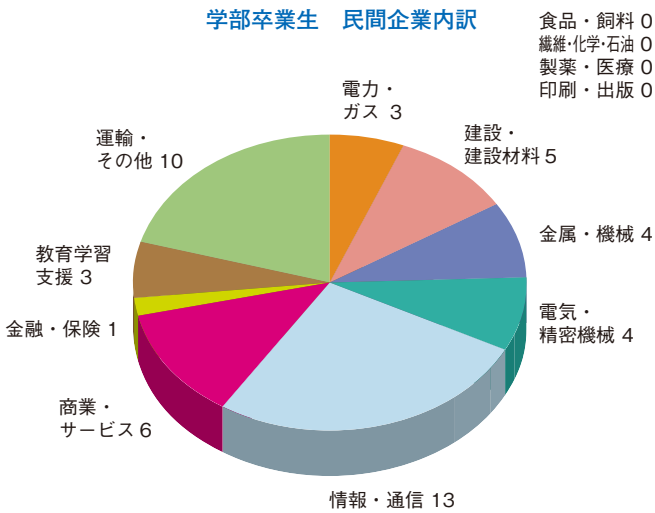
学生と企業・公的機関の担当者の懇談会では、自由な意見交換をおこなうことにより、企業・公的機関が身近に感じられます。

進路状況

令和7年度 理学部卒業生

学部	数学プログラム	物理学プログラム	化学プログラム	生物学プログラム	地質科学プログラム	自然環境科学プログラム	フィールド科学 人育成プログラム	理学部
進学	20	22	21	10	8	12	6	99
教員(含む非常勤)	2	1	3	1	1	0	0	8
公務員	2	1	4	0	2	3	3	15
民間企業								
食品・飼料	0	0	0	0	0	0	0	0
繊維・化学・石油	0	0	0	0	0	0	0	0
電力・ガス	0	2	0	1	0	0	0	3
製薬・医療	0	0	0	0	0	0	0	0
建設・建設材料	0	0	0	1	3	1	0	5
金属・機械	0	1	1	2	0	0	0	4
電気・精密機械	2	0	1	0	0	1	0	4
情報・通信	6	4	2	1	0	0	0	13
印刷・出版	0	0	0	0	0	0	0	0
商業・サービス	2	1	0	1	0	2	0	6
金融・保険	1	0	0	0	0	0	0	1
教育学習支援	1	1	1	0	0	0	0	3
運輸・その他	2	2	3	1	0	0	2	10
その他	1	3	1	2	1	2	0	10
合計	39	38	37	20	15	21	11	181

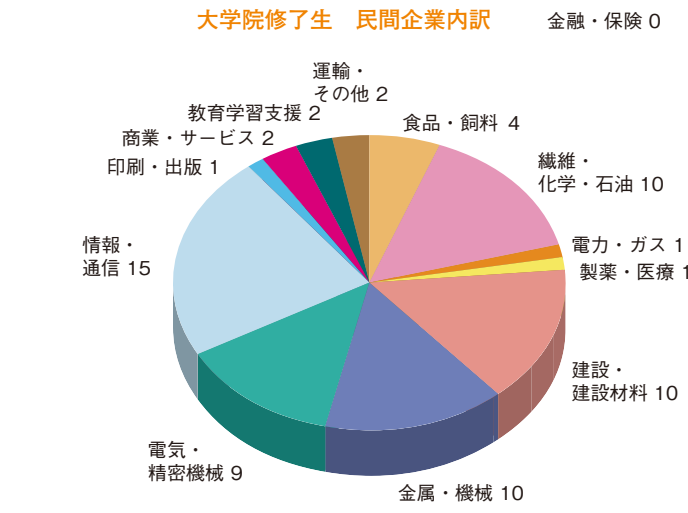
学部卒業生 民間企業内訳



令和7年度 大学院自然科学研究科(博士前期課程)理学系修了生

大学院	数理科学コース	物理学コース	化学コース	基礎生命科学コース	地球科学コース	自然システム科学コース	フィールド科学コース	自然科学研究科理学系
進学	5	2	1	1	3	1	0	13
教員(含む非常勤)	4	1	1	0	0	0	1	7
公務員	1	1	0	1	0	1	1	5
民間企業								
食品・飼料	0	0	1	3	0	0	0	4
繊維・化学・石油	0	0	5	4	1	0	0	10
電力・ガス	0	0	0	1	0	0	0	1
製薬・医療	0	0	0	0	0	1	0	1
建設・建設材料	0	0	2	1	4	1	2	10
金属・機械	2	3	5	0	0	0	0	10
電気・精密機械	0	7	2	0	0	0	0	9
情報・通信	5	5	1	2	0	2	0	15
印刷・出版	0	0	1	0	0	0	0	1
商業・サービス	0	1	0	1	0	0	0	2
金融・保険	0	0	0	0	0	0	0	0
教育学習支援	2	0	0	0	0	0	0	2
運輸・その他	0	1	1	0	0	0	0	2
その他	1	1	0	0	2	0	0	4
合計	20	22	20	14	10	6	4	96

大学院修了生 民間企業内訳



令和6年度 理学部卒業生

学部	数学プログラム	物理学プログラム	化学プログラム	生物学プログラム	地質科学プログラム	自然環境科学プログラム	フィールド科学 人育成プログラム	理学部
進学	27	25	26	20	15	11	11	135
教員(含む非常勤)	9	0	0	0	1	0	0	10
公務員	2	2	2	0	2	2	2	12
民間企業								
食品・飼料	0	0	0	1	0	0	0	1
繊維・化学・石油	0	0	0	0	0	0	0	0
電力・ガス	0	0	0	0	0	0	0	0
製薬・医療	0	0	0	0	0	1	0	1
建設・建設材料	0	1	2	0	1	2	2	8
金属・機械	0	1	0	0	1	0	0	2
電気・精密機械	1	1	0	1	1	0	0	4
情報・通信	4	4	5	1	1	0	0	15
印刷・出版	0	0	0	0	0	0	0	0
商業・サービス	0	1	3	1	1	2	0	8
金融・保険	1	0	1	0	1	0	0	3
教育学習支援	2	1	0	0	0	0	0	3
運輸・その他	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	2	1	2	0	0	2	2	9
合計	48	37	41	24	24	20	17	211

令和6年度 大学院自然科学研究科(博士前期課程)理学系修了生

大学院	数理科学コース	物理学コース	化学コース	基礎生命科学コース	地球科学コース	自然システム科学コース	フィールド科学コース	自然科学研究科理学系
進学	2	3	2	1	2	0	0	10
教員(含む非常勤)	1	1	0	1	0	2	0	5
公務員	0	0	0	0	0	1	0	1
民間企業								
食品・飼料	0	0	0	1	0	0	0	1
繊維・化学・石油	0	0	3	2	0	1	0	6
電力・ガス	0	3	1	0	0	0	0	4
製薬・医療	0	0	0	1	0	0	0	1
建設・建設材料	1	1	1	1	1	0	2	7
金属・機械	2	5	1	0	0	0	0	8
電気・精密機械	0	7	3	0	0	0	0	10
情報・通信	5	5	0	0	0	0	1	11
印刷・出版	0	0	1	0	0	0	0	1
商業・サービス	0	0	0	3	0	0	1	4
金融・保険	0	1	0	0	1	0	1	3
教育学習支援	0	1	0	0	0	1	0	2
運輸・その他	1	0	4	2	1	1	2	11
その他	1	0	0	0	1	0	0	2
合計	13	27	16	12	6	6	7	87

数

字

で見る 理学部

募集人員

理学部理学科は、7つの学位プログラム(数学、物理学、化学、生物学、地質科学、自然環境科学、フィールド科学人材育成)からなります。学位プログラムへの所属は2年次1学期終了時点で決定します。

総合型選抜および一般選抜(前期日程・後期日程)では、学位プログラムにかかわらず、理学科全体で一括して募集します。

学校推薦型選抜では、学位プログラムごとに募集します。なお、「フィールド科学人材育成プログラム」の募集は行いません。

概ねの募集人員は、次のとおりです。

学科	入学定員	学位プログラム	前期日程(125人)			後期日程	総合型選抜	学校推薦型選抜(40人)
			理数重点選抜	理科重点選抜	野外科学志向選抜			
理学科	200人	数学プログラム	85	25	15	30	5	10
		物理学プログラム						7
		化学プログラム						7
		生物学プログラム						5
		地質科学プログラム						5
		自然環境科学プログラム						6
		フィールド科学人材育成プログラム						

理学部では第3年次編入学の学生募集も行っています。令和元年度から7プログラム別に募集を行っています。募集人員は、次のとおりです。

学科	学位プログラム	第3年次編入学
理学科	数学プログラム、物理学プログラム、化学プログラム、生物学プログラム 地質科学プログラム、自然環境科学プログラム、フィールド科学人材育成プログラム	10

学生数一覧

R8.4.1 現在

学科	学年定員	在籍者数					学科計
		1年	2年	3年	4年		
理学科	200	216	255	232	213	916	

教員数一覧

R8.4.1 現在

プログラム	教授	准教授・講師	助教	計
数学プログラム	7	4	1	12
物理学プログラム	5	10	5	20
化学プログラム	6	4	1	11
生物学プログラム	4	5	1	10
地質科学プログラム	4	5	1	10
自然環境科学プログラム	3	3	1	7
フィールド科学人材育成プログラム	2	3	2	7
理学部合計	31	34	12	77

取得できる 教育職員免許状 ・資格

学科	教育職員免許状	各種資格
理学科	中学校1種(数学、理科) 高等学校1種(数学、理科)	学芸員(資格) 危険物取扱者(甲種)(受験資格) 技術士補(資格)(JABEE認定プログラムのみ) 測量士補(資格) GIS学術士(資格)

理学部の共通施設

[サイエンス ミュージアム]

Science Museum

貴重な鉱物・岩石・化石や生物などの標本が展示され、各プログラムと臨海実験所の活動が紹介されています。

開室は毎週火・水・木曜の午前11時～午後3時でどなたでもご自由にご覧いただけます（無料）。



[学生ラウンジ] Lounge for the Student

休憩やオンライン授業の受講に利用できるスペースです。



[リフレッシュルーム] Refresh Room

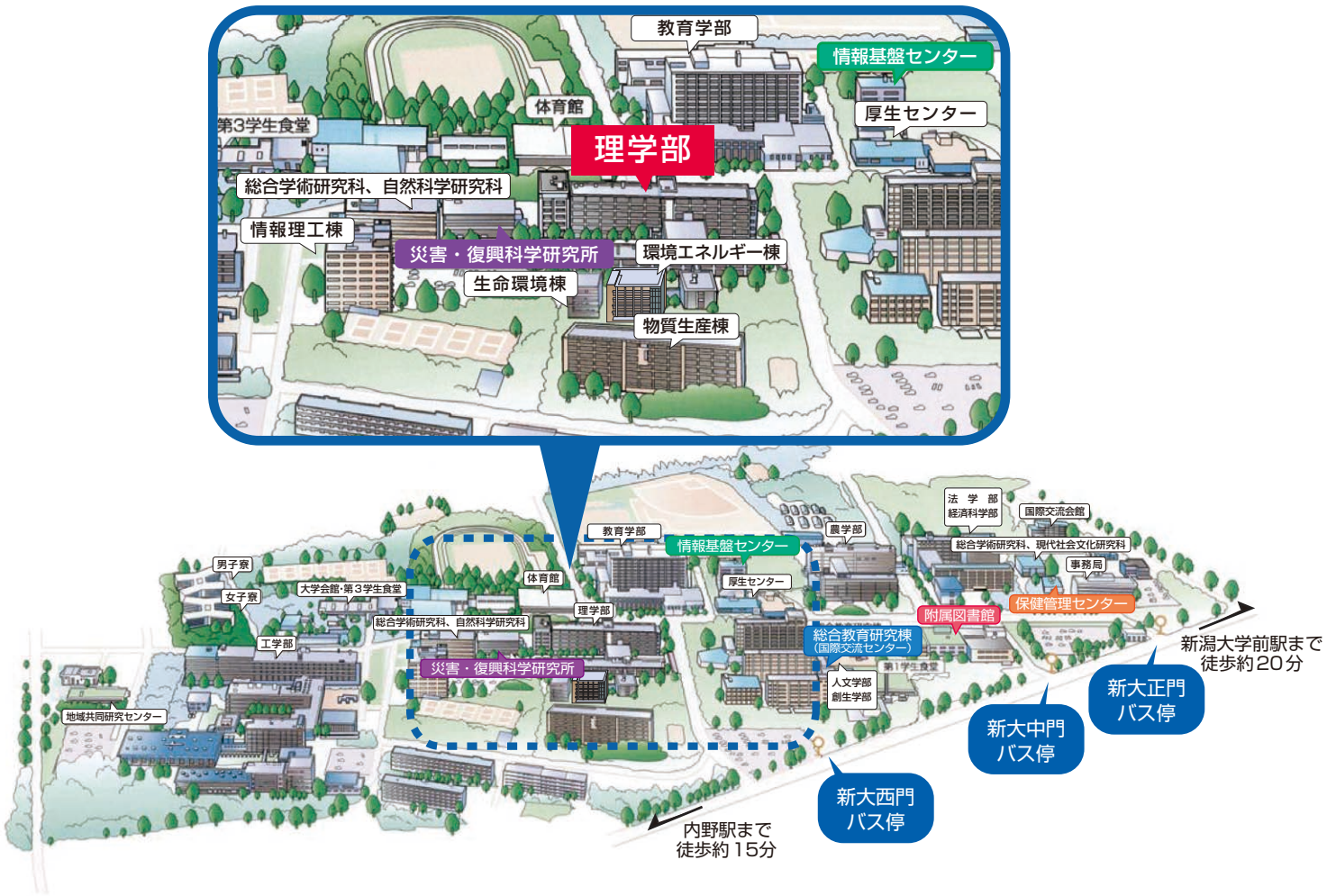
休憩や昼食、勉強も可能な学生用のスペースで、各階に設置されています。



[理学部共通図書室]

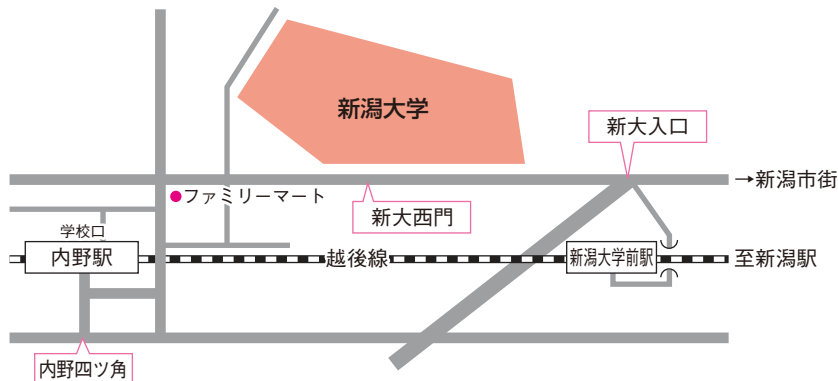
Library of the Faculty of Science

主に学生用の専門図書、雑誌を配置しています。



理学部へのアクセス

- 新潟空港から新潟駅まで
新潟駅行きエアポートリムジンバス乗車、新潟駅下車(所要時間約25分)。
- 新潟駅から
 - 新潟交通バス利用
新潟駅バスのりば7番発西小針線「(西小針経由)新潟大学行き」又は「新潟大学経由・内野営業所行き」に乗車(所要時間45分)。「新大西門」で下車徒歩約3分。
 - JR越後線利用
新潟駅から新潟大学前駅(所要時間22分)下車徒歩約20分、または内野駅(所要時間25分)下車徒歩約15分。



数学プログラム
Mathematics Program

物理学プログラム
Physics Program

化学プログラム
Chemistry Program

生物学プログラム
Biology Program

地質科学プログラム
Geology Program

自然環境科学プログラム
Environmental Science Program

フィールド科学人材育成プログラム
Program of Field Research in the Environmental Sciences



新潟大学理学部

<https://www.sc.niigata-u.ac.jp/>

〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050

TEL 025-262-6106

FAX 025-262-6354



新潟大学の各種情報は、携帯電話
サイトからもご覧いただけます。
左のQRコードまたはURLから
アクセスできます。

<https://www.niigata-u.ac.jp>



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。